

平成27年度版

平塚市子ども・子育て支援事業計画  
点検・評価

事業評価シート まとめ

～基本施策（市の取組み）～

## 留意事項

### 1 事業評価 総括表

#### ○点数

評価がAの事業を5点、評価がBの事業を3点、評価がCの事業を1点とし、施策ごとの平均点を記載しています。評価なしは算定から除いています。

#### ○評価

各事業の検証結果を記載しています。

A・・・成果があがった（事業の成果が期待どおり又はそれ以上だった）

B・・・おおむね成果があがった（事業の成果が期待を若干下回ったものの概ね満足できる）

C・・・十分に成果をあげることができなかった（事業の成果が期待を下回り、満足できない）

#### ○今後の事業展開

①・・・現状の規模で継続

②・・・拡大して継続

③・・・縮小して継続

④・・・廃止

⑤・・・休止

⑥・・・終了

⑦・・・他事業と統合

#### ○評価状況（1 2 1 事業）

A 98事業、B 20事業、C 1事業、評価なし 2事業

### 2 事業評価シート

#### ○今後の事業展開とその判断理由

今後の事業展開は上記1のとおりとしています。

原則「①現状の規模で継続」以外は、判断理由を記載しています。

#### ○平成26年度以前の主な取組み等について

次世代育成支援行動計画の進行管理総括表から抜粋しています。事業進捗度で進行管理を行っていたため、評価をしていませんので、「検証結果」を空欄としています。また、次世代育成支援行動計画に位置づけがあっても内容の組み換えがあった事業及び子ども・子育て支援事業計画において新たに位置づけした事業は記載なしとしています。

事業評価 総括表

平成27年度

基本目標	施策	点数	番号	事業	評価	今後の事業展開	ページ	
1 ありがとう！ 自分のいのち みんなのいのち	(1) 子どもの権利の確保	5	1	人権擁護意識の普及・啓発事業	A	①	1	
			2	子どものための相談機能の充実	A	①	2	
			3	保護を必要とする子どもへの対策	A	①	3	
	(2) 児童虐待の防止	5	1	児童虐待防止ネットワークの充実	A	①	4	
			2	養育支援訪問事業	A	①	5	
	(3) 育ちの環境の整備	4.8	1	異年齢児交流事業	A	①	6	
			2	世代間交流事業	A	①	7	
			3	自然体験等活動	A	①	8	
			4	夏休みこども環境教室事業	A	①	9	
			5	水辺の楽校プロジェクト推進事業	B	①	10	
			6	児童・生徒地域参加事業の推進	A	①	11	
			7	自然観察等事業	A	①	12	
			8	プラネタリウム投影事業	A	①	13	
	(4) 家庭や地域の教育力の向上	5	1	育児講座	A	①	15	
			2	家庭教育支援の充実	A	①	16	
			3	学習の場の充実	A	①	17	
			4	子育て支援地域派遣事業	A	①	18	
			5	地域福祉推進事業	A	②	19	
			6	保育所のボランティアの受入れ	A	①	20	
			7	非行防止活動の推進	A	①	21	
			8	こころと命のサポート事業	A	①	22	
	2 たのしく！ 子育てを	(1) 様々な子育て支援サービス	4.2	1	一時預かり事業	A	①	23
				2	ファミリー・サポート事業	B	②	24
				3	ショートステイ事業 (未実施)	—	①	25
				4	特別保育拡充事業	A	①	26
				5	私立幼稚園の預かり保育の推進	A	①	27
				6	病後児保育	A	①	28
				7	学童保育の充実・推進	A	①	29
8				放課後等子どもの居場所づくり推進事業	B	②	30	
9				放課後子ども総合プランの推進	B	②	31	
10				民間保育所施設整備支援事業	A	①	32	
11				公立保育所施設整備事業	A	③	33	
12				私設保育施設等交流事業 (実績なし)	—	④	34	
13				私設保育施設への支援	B	①	35	
14				幼保一元化のモデルケース事業	A	①	36	
15				公立園の在り方の検討	B	①	37	
(2) 親・子の交流の場づくり		4.7	1	子育て支援センター事業	A	①	38	
			2	つどいの広場事業	A	①	39	
			3	開放保育事業	A	①	40	
			4	赤ちゃん広場事業	A	③	41	
			5	親子ふれあい体験事業	A	①	42	
			6	ブックスタート事業	B	②	43	
			7	活動場所の確保	A	①	44	
(3) 情報提供・相談体制の充実		3.5	1	情報提供の推進	B	①	45	
			2	子育て支援総合コーディネート事業	B	①	46	
			3	幼稚園・保育所の育児相談	A	①	47	
			4	女性のための相談事業	B	①	48	
(4) 男女共同参画の推進		3	1	男女共同参画意識改革事業	B	①	49	
(5) 職場環境の改善		3.7	1	労働セミナー事業	B	①	50	
			2	就労支援制度の普及・啓発	A	①	51	
			3	就労環境の向上に向けた普及・啓発	B	①	52	
(6) 母子・父子家庭の自立支援		4.3	1	母子・父子相談の充実	B	①	53	
			2	母子・父子自立支援事業	A	②	54	
			3	母子生活支援施設の充実	A	①	55	
(7) 経済的支援の充実		5	1	小児医療費の助成	A	②	56	
			2	ひとり親家庭等医療費助成事業	A	①	57	
			3	保育所保育料の軽減	A	②	58	
			4	幼稚園就園奨励事業	A	③	59	
	5		児童生徒就学援助事業	A	①	60		

事業評価 総括表

平成27年度

基本目標	施策	点数	番号	事業	評価	今後の事業展開	ページ	
3 のびのび！学んで	(1) 学校(園)教育の充実	4.8	1	幼児教育指導法の工夫・改善	A	①	61	
			2	幼・保・小・中連携の推進事業	A	①	62	
			3	幼児教育の支援	A	①	63	
			4	生きる力を育む学校づくり推進事業	A	③	64	
			5	外国人英語指導者の学校訪問事業	A	①	65	
			6	人権教育の推進	A	①	66	
			7	日本語指導協力者派遣事業	A	①	67	
			8	サポートチームシステム推進事業	A	①	68	
			9	中学校部活動指導者派遣事業	A	①	69	
			10	学校支援ボランティアの活用	A	①	70	
						11	教材・教具等の充実	B
(2) 相談活動の推進	5	1	教育相談体制の充実事業	A	⑦	72		
		2	スクールカウンセラー派遣事業	A	②	73		
4 ほっと！安心のまちを	(1) 道路交通安全の向上	5	1	交通安全啓発推進事業	A	①	74	
			2	歩道設置事業	A	①	75	
			3	通学路合同点検事業	A	①	76	
	(2) 防犯の強化	4.6	1	地域安全運動の推進	A	①	77	
			2	地域安全施設整備事業	A	②	78	
			3	学校(園)の安全対策事業	A	①	79	
			4	通学路安全対策事業	A	③	80	
			5	子どもの安全対策の推進	B	①	81	
	(3) あそびの場づくり	3	1	安全対策の推進	A	①	82	
			2	公園整備事業 (対象施設の再検討が必要)	C	①	83	
	(4) まちのバリアフリー化	5	1	歩道のバリアフリー化事業	A	①	84	
			2	ノンステップバス推進事業	A	①	85	
	(5) 有害環境の改善	4	1	環境実態調査	A	①	86	
			2	違反屋外広告物除去事業	B	①	87	
	5 すこやかに！育って(平塚市母子保健計画)	(1) 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策 基盤課題A	4.6	①1	妊婦健康診査	A	②	88
				①2	妊産婦の相談の充実	B	②	89
				①3	妊産婦への教育の充実	B	①	90
				②1	乳幼児健康診査	A	①	91
				②2	乳幼児期の相談の充実	A	①	92
②3				訪問事業	A	①	93	
②4				学習の場の提供	A	①	94	
②5				感染症対策の推進	A	①	95	
②6				5歳児健康診査	A	②	96	
②7				保育所における食育の推進	A	①	97	
(2) 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策 基盤課題B		5	①1	教育の充実1	A	①	98	
			①2	教育の充実2	A	①	99	
			①3	学校保健の充実	A	①	100	
			①4	スクールカウンセラー派遣事業(再掲)	A	②	101	
			②1	思春期の教育の充実	A	①	102	
			②2	こころと命のサポート事業(再掲)	A	①	103	
(3) 子どもが健やかに育つための地域づくり 基盤課題C		4.7	1	一時預かり事業(再掲)	A	①	104	
			2	ファミリー・サポート事業(再掲)	B	②	105	
			3	子育て支援センター事業(再掲)	A	①	106	
			4	つどいの広場事業(再掲)	A	①	107	
			5	開放保育事業(再掲)	A	①	108	
			6	赤ちゃん広場事業(再掲)	A	③	109	
(4) 育てにくさを感じる親への支援 重点課題①		5	①1	育てにくさを感じる親に寄り添う支援	A	①	110	
			①2	子育て講座	A	①	111	
			①3	ペアレントトレーニング	A	①	112	
			②1	こども発達支援室の療育相談	A	①	113	
			③1	地域療育システム事業	A	①	114	
	③2		福祉サービス費の支給	A	①	115		
	③3		障がい児保育	A	①	116		
	③4		統合保育	A	①	117		
(5) 児童虐待の防止対策 重点課題②	5	③5	体験・交流保育事業	A	①	118		
		③6	支援教育等の推進・充実事業	A	⑦	119		
		①1	ハイリスク者への支援の充実	A	①	120		
		②1	児童虐待防止ネットワークの充実(再掲)	A	①	121		

1 (1) 1	人権擁護意識の普及・啓発事業	担当課	人権・男女共同参画課 教育総務課 教育指導課
---------	----------------	-----	------------------------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
「児童の権利に関する条約」や人権について、パンフレット、広報ひらつか等を通して、権利主体としての子どもについて市民の理解促進に努めます。	子どもの権利の尊重について、より市民の理解促進や意識啓発を行うことができるように周知方法等を工夫し、取組みを推進します。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権相談会（相談員：人権擁護委員）を原則毎月第1、第3火曜日に市役所本館会議室で実施（18回開催）</li> <li>・人権キャンペーンの実施 9月27日（日）市民活動センターまつりにて啓発物品を配布 450組（クリアファイル450部、人権ポケットブック「セクシュアル・ハラスメント」450部、人権啓発用チラシ2種類各450部） 11月1日（日）平塚商業まつり会場にて、啓発物品を配布 人権標語タオル1572枚、人権ポケットブック「セクシュアル・ハラスメント」1500部、講座周知チラシ1572部、人権相談周知チラシ1572部 12月1日（火）平塚駅周辺にて人権週間に伴う街頭キャンペーン 啓発物品を配布 1,514個（ウェットティッシュ796個、手袋166個、カイロ276個、ポケットティッシュ276個）</li> <li>・人権メッセージ展の開催 会期：11月30日（月）～12月4日（金） 場所：市役所本館1階多目的スペース</li> <li>・市内中学校から人権メッセージを募集し、市役所多目的ホールで人権メッセージ展を開催した。</li> <li>・人権メッセージ展作品の審査を行った。（校内での事前審査を経て、11中学校から寄せられた151作品の審査を行い、30作品を選出した。）</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	今後は参加型の人権啓発事業を展開し、市民に人権についてより身近に感じていただけるようにする必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権相談会（相談員：人権擁護委員）を原則毎月第1、第3火曜日に市役所本館会議室で実施（23回開催）</li> <li>・神奈川県ゆかりの「特定失踪者」パネル展示 会期：9月16日（火）～26日（金） 場所：市役所本館1階多目的スペース</li> <li>・人権キャンペーンの実施 9月28日（日）市民活動センターまつりにて啓発物品を配布 450組（クリアファイル450部、人権ポケットブック「外国人と人権」450部、人権啓発用チラシ2種類各450部）11月2日（日）平塚商業まつり会場にて、啓発物品を配布 1500組（人権標語タオル1500枚、人権ポケットブック「外国人と人権」1500部） 12月2日（火）平塚駅周辺にて人権週間に伴う街頭キャンペーン 啓発物品を配布 1189個（ウェットティッシュ955個、手袋164個、ミニタオル70枚）</li> <li>・人権メッセージ展の開催 会期：12月4日（木）～10日（水） 場所：市役所本館1階多目的スペース</li> <li>・人権講演会 日時：11月14日（金） テーマ：子どもと人権～大好きという思いを～参加者数：123人</li> <li>・人権メッセージ展作品の審査を行った。（校内での事前審査を経て、8中学校から寄せられた132作品の審査を行い、選出した30作品を教育総務課に提出した。）</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権相談会（相談員：人権擁護委員）を原則毎月第1、第3火曜日に市役所会議室で実施（24回開催）</li> <li>・神奈川県ゆかりの「特定失踪者」パネル展示 会期：9月17日（火）～27日（金）場所：市役所1階市民ホール</li> <li>・人権キャンペーンの実施 9月29日（日）市民活動センターまつりにて啓発物品を配布 600組（クリアファイル600部、人権リーフレット「育んでいますか？」600部、人権啓発用チラシ3種類各600部）、クリアファイル200部 11月4日（月）平塚商業まつり会場にて、啓発物品を配布 1500組（人権標語タオル1500枚、人権リーフレット「育んでいますか？」1500部）12月3日（火）平塚駅周辺にて人権週間に伴う街頭キャンペーン 啓発物品を配布 1969個（ウェットティッシュ876個、カイロ363個、マスク559枚、絆創膏171個）</li> <li>・人権メッセージ展の開催 会期：12月2日（月）～6日（金） 場所：市役所1階市民ホール</li> <li>・人権講演会 日時：11月14日（木） テーマ：福祉と人権～障がい分野の動向から考える～ 参加者数：118人</li> <li>・人権メッセージ展作品の審査を行った。（校内での事前審査を経て、9中学校から寄せられた168作品の審査を行い、選出した29作品を教育総務課に提出した。）</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

**備考（その他）**

平成28年度から人権・男女共同参画課における予算事業名が、「人権意識の普及・啓発事業」に変更されるため、今後、本計画の事業名の変更するかどうか検討する必要がある。

1 (1) 2	子どものための相談機能の充実	担当課	青少年課
---------	----------------	-----	------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
子ども自身や保護者が相談できる電話・来室相談や学校における相談の機会等、子どものための相談体制を充実します。	子ども自身や保護者の悩みを早期に解決するために相談機能の充実を図ります。

### 各年度における主な取組み等

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数</li> <li>  青少年相談 (月～土) 462件</li> <li>  ヤングテレホン相談 (月～土) 453件</li> <li>  ヤングテレホンメール相談 82件</li> <li>・相談室の啓発チラシを6月、12月、2月に、啓発カードを10月に、市内小・中・高校・中等教育学校、大磯高校、二宮高校の全児童・生徒及び教職員充てと、各公民館・図書館に配布した。(合計年4回、各32,000部)</li> <li>・公民館便りへの青少年相談室の広報記事の掲載を依頼。</li> </ul>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">検証結果</td> <td>A: 成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A: 成果があがった
	検証結果	A: 成果があがった	
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">今後の課題</td> <td>現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要があります。</td> </tr> </table>	今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要があります。
今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要があります。		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要です。</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要です。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要です。		
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数</li> <li>  青少年相談 (月～土) 372件</li> <li>  ヤングテレホン相談 (月～土) 278件</li> <li>  ヤングテレホンメール相談 107件</li> <li>・相談室の啓発チラシを5月、9月、1月頃に市内小・中・高校、大磯高校、二宮高校、各公民館・図書館に配布した。(年3回、各約32,000部)</li> <li>・公民館だよりへの青少年相談室の広報記事の掲載を依頼。</li> <li>・相談室の啓発リーフレットを10月～11月に市内小・中・高校、各公民館・図書館に配布した。(約30,000枚)</li> </ul>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">検証結果</td> <td></td> </tr> </table>	検証結果	
	検証結果		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数</li> <li>  青少年相談 (月～土) 253件</li> <li>  ヤングテレホン相談 (月～土) 433件</li> <li>  ヤングテレホンメール相談 164件</li> <li>・相談室の啓発チラシを6月、9月、1月頃に市内小・中・高校、大磯高校、二宮高校、各公民館・図書館に配布した。(年3回、各約32,000部)</li> <li>・公民館だよりへの青少年相談室の広報記事の掲載を依頼。</li> <li>・相談室の啓発カードを11月～12月に市内小・中・高校、大磯高校、二宮高校、各公民館・図書館に配布した。(約32,000枚)</li> </ul>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">検証結果</td> <td></td> </tr> </table>	検証結果	
	検証結果		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		

備考 (その他)

1 (1) 3	保護を必要とする子どもへの対策	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども総合相談担当と県児童相談所との連携を密にし、保護を必要とする子どもへの早期対応を図ります。</li> <li>・里親制度の啓発・普及に努めます。</li> </ul>		引続き事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。</li> <li>・里親制度紹介講座及び里親相談（平塚児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
平成 26 年度	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。</li> <li>・里親制度紹介講座及び里親相談（県中央児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
平成 25 年度	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

1 (2) 1	児童虐待防止ネットワークの充実	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>児童虐待は、こども総合相談担当を中心に相談を受け、児童の処遇対応をしていますが、必要に応じて援助活動チームを編成し、関係機関と連携を取り対応します。</p>		<p>平塚市児童虐待防止等ネットワークの構成機関と連携し、子育ての支援、虐待等の早期発見や未然防止及び対策を進めます。 また、定期的の実務者会議を開催するとともに、個別ケース検討会議を随時開催します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議61回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議44回</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議47回</p>		
	検証結果		
	今後の課題	関係機関との連携	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			



1 (2) 2	養育支援訪問事業	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>保護者の疾病等の理由により、児童を養育することに支障が生じた家庭に対して、安定した児童の養育が可能となるように訪問による支援を実施します。</p>		<p>適切な時期に支援が導入できるように関係機関と連携を図り、実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<p>件数：6件 実施内容： ①訪問53回(保健師訪問43回) ②電話相談124回(保健師電話93回) ③家事援助(ヘルパー)：56回 計76.3時間 ④所内面接、同行受診等：13回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>件数：4件 実施内容： ①訪問26回(保健師訪問22回) ②電話相談30回(保健師電話29回) ③家事援助(ヘルパー)：30回 計59時間 ④所内面接、同行受診等：4回</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>件数：4件 実施内容： ①訪問30回(保健師訪問24回) ②電話相談44回(保健師電話29回) ③家事援助(ヘルパー)：68回 計67時間 ④所内面接、同行受診等：18回(保健師：11回)</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 1	異年齢児交流事業	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
園の行事や地域の行事等を通して、幼稚園や保育所の園児と地域の児童や小学生との交流を図り、幼児及び児童の社会性を養います。〔対象：就学前児童及び小学生〕		園の行事や地域の行事を通して、地域の児童や小学生と交流します。また、乳幼児が小学校を訪問したり、園に小学生を招待して一緒に活動する等の交流を図ります。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育施設と小学校の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、園児と小学生の交流を図った。 実施園：38園</li> <li>・ 中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園：38園</li> <li>・ 幼稚園の幼児が小中学校を訪問したり、小中学生が幼稚園を訪問したりするなど、園行事や地域の行事等様々な活動を通し、交流を図った。 実施園：5園</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園の幼児が小中学校を訪問したり、小中学生が幼稚園を訪問したりするなど、園行事や地域の行事等様々な活動を通し、交流を図った。 実施園：5園</li> <li>・ 園児が小学校を訪問（運動会への参加・入学前の学校訪問など）したり、園の年中行事に小学生等を招待し、積極的な交流を図った。 実施園：33園</li> <li>・ 中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園33園</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児が小学校を訪問（運動会への参加・入学前の学校訪問など）したり、園の年中行事に小学生等を招待し、積極的な交流を図った。 実施園：33園</li> <li>・ 中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園33園</li> <li>・ 幼稚園の幼児が小中学校を訪問したり、小中学生が幼稚園を訪問したりするなど、園行事や地域の行事等様々な活動を通し、交流を図った。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (3) 2	世代間交流事業	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
高齢者施設の訪問や地域の高齢者を幼稚園や保育所へ招待し、園児や地域の子どもとともに世代間のふれあい活動を行います。〔対象：就学前児童及び高齢者〕		定期的な高齢者施設の訪問や、保育所・幼稚園に園児の祖父母や地域の高齢者を招待し、世代間のふれあい活動を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育施設と高齢者施設の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、世代間の交流を図った。 実施園：38園</li> <li>・ 幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。</li> <li>・ 定期的に老人施設を訪問したり、園の年中行事へ招待したり、地域で実施されるお年寄りのイベントなどに参加をしたりして、世代間の交流を積極的に図った。 実施園：33園</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に老人施設を訪問したり、園の年中行事へ招待したり、地域で実施されるお年寄りのイベントなどに参加をしたりして、世代間の交流を積極的に図った。 実施園：33園</li> <li>・ 幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 3	自然体験等活動	担当課	保育課 教育指導課 青少年課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所、幼稚園の園児や地域の子どもの「生きる力」を培い、また社会性の育成を図るため、自然体験や社会体験活動を行います。〔対象：就学前児童〕</li> <li>・ 自然とふれあう体験活動の機会の充実を図ります。〔対象：小学生等〕</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の自然を活用した自然体験活動や園外保育等において、園では味わえない自然体験や社会体験活動を実施します。</li> <li>・ 概ね月1回程度、自然のものを生かしたクラフトや野外炊事、作物の植付収穫等の体験を実施します。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を実施した。実施園：38園</li> <li>・ ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。</li> <li>・ 幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。実施園：5園</li> <li>・ びわ青少年の家自主事業「びわっ子クラブ」年9回開催 (参加者 延べ561名 ボランティアスタッフ含む) ※5月「森の新緑祭」、10月「森の収穫祭」、12月「森の歳末祭」を含む。この3回に関しては、会員家族と会員以外の一般家族も募集した。 ※8月は、「びわっ子サマーキャンプ」としてテント泊を体験した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を積極的に実施した。実施園：33園</li> <li>・ ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。</li> <li>・ 幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。実施園：5園 年9回実施 (参加者：延べ525名※ボランティアスタッフ含む) そのうち、5月に「森の新緑祭」、10月に「森の収穫祭」、12月に「森の歳末祭」を兼ねて実施して、会員家族と会員以外の一般家族も募集して参加してもらった。8月の開催時には、びわっ子サマーキャンプとしてテント宿泊を実施した。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を積極的に実施した。実施園：33園</li> <li>・ ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。</li> <li>・ 幼稚園の幼児が小中学校を訪問したり、小中学生が幼稚園を訪問したりするなど、園行事や地域的行事等様々な活動を通し、交流を図った。年9回実施 (参加者：延べ455名※ボランティアスタッフ含む) そのうち5月に「森の新緑祭」、10月に「森の収穫祭」、12月に「森の歳末祭」を兼ねて実施して、会員家族と会員以外の一般家族も募集して参加してもらった。 8月の開催時には、びわっ子サマーキャンプとしてテント宿泊を実施した。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	昨年度から神奈川大学ボランティアサークルの学生のお手伝いをいただき、事業実施に際しては助かっているが、今後も安定的な学生ボランティアの確保の点では不安が残るので、神奈川大学だけでなく、東海大学の学生にも参加を促していきたい。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 4	夏休みこども環境教室事業	担当課	環境政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>環境の保全や創造の重要性に気づき、考え、それぞれの立場に応じて自発的、積極的に行動できる人材の育成を目指すため、里山で自然にふれる体験をしたり、普段見ることのない沖合を、遊漁船に乗って観察する等します。</p>		<p>昆虫探しや小川遊び、自然を生かした遊具体験等を通じて里山の自然とふれあう体験学習と、ビーチコーミング (浜辺の漂着物観察) やビーチクリーン、漁船からの相模湾の観察を行い、海辺の環境を考える体験学習を夏休み期間中にそれぞれ1回ずつ実施することで、次世代を担う子どもたちの環境への関心を高めるように促します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<p>夏休みこども環境教室を実施。  <b>【里山編】</b>            実施日時：平成27年8月1日 (土) 午前10時から午後2時30分            実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド            参加人数：94名 (子ども53名、保護者41名)            実施内容：午前/昆虫探し、カボチャ探し 午後/里山遊び、工作教室 (竹細工)  <b>【海編】</b>            実施日時：平成27年8月6日 (木) 8時30分から12時            実施場所：平塚新港 (相模湾) および西側の浜辺            参加人数：31名 (子ども18名、保護者13名)            実施内容：海についての講話/遊漁船からの相模湾観察/ビーチコーミング・ビーチクリーン</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	平成28年度は、【海編】について、遊漁船からの相模湾観察に関わる費用対効果が低くなっているため、見直しを行う。実施内容の変更に伴い、参加者数の減少が予想されるため、参加者の確保に努める。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<p>・夏休みこども環境教室を実施。  <b>【山編】</b>            実施日時：平成26年8月2日 (土) 午前10時から午後2時30分            実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド            参加人数：62名 (子ども31名、保護者31名)            実施内容：午前/昆虫探し、カボチャ探し 午後/里山遊び、工作教室 (竹細工)  <b>【海編】</b>            実施日時：平成26年8月4日 (月) 8時30分から12時            実施場所：平塚新港 (相模湾) および西側の浜辺            参加人数：35名 (子ども20名、保護者15名)            実施内容：海についての講話/ウミガメについての講話/ビーチコーミング・ビーチクリーン (荒天により遊漁船の出港ができず、遊漁船からの相模湾観察はウミガメについての講話に変更となった。)</p>		
	検証結果		
	今後の課題	環境教室は本来、「環境について学び、考えてもらうイベント」であるが、「単に楽しい時間を過ごせるイベント」として参加する市民が多く、計画どおり実施され、参加者の満足度は高いものの、環境教室本来の目的がうまく伝わっていないように感じる。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<p>・夏休みこども環境教室を実施。  <b>【山編】</b>            実施日時：平成25年7月20日 (土) 午前10時から午後2時30分            実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド            参加人数：67名 (子ども38名、保護者29名)            実施内容：午前/昆虫探し、カボチャ探し 午後/里山遊び、工作教室 (竹細工)  <b>【海編】</b>            実施日時：平成25年7月25日 (木) 8時30分から12時            実施場所：平塚新港 (相模湾) および西側の浜辺            参加人数：63名 (子ども40名、保護者23名)            実施内容：海についての講話/遊漁船からの相模湾観察/ビーチコーミング・ビーチクリーン</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (3) 5	水辺の楽校プロジェクト推進事業	担当課	みどり公園・水辺課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>子どもたちが、積極的に自然にふれあいながら「あそび」「学び」「冒険心」「創造性」を育み、自然と接する「作法」や「感性」を養う場として活用します。</p>		<p>市民や子どもたちのあそびや自然体験の場として積極的に活用できるようにするために水辺の楽校の維持管理を行うとともに、活動団体が、イベント等を実施する際に、広報活動等の支援を行います。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコアップ活動の開催10回（参加者140人）</li> <li>・イベント開催4回</li> <li>・トンボ調査開催8回</li> <li>・NHK BSプレミアム「発見！体感！川紀行！」に取り上げられ、紹介された。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	市民団体が運営しているが、担い手が固定化・高齢化しており、若い後継者の育成が課題。また、活動が年々拡充されているが、現状の運営態勢では対応が困難になってきており、今後の水辺の楽校の会との関わり方を、整理、検討する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンボ調査の開催1回</li> <li>・エコアップ活動の開催13回（参加者362名）</li> <li>・イベント開催4回</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	市民団体が運営しているが、担い手が固定化・高齢化しており、若い後継者の育成が課題。また、活動資金不足が危惧されていたが、「ボランティア活動奨励金」を交付され、活動資金に余裕が出た。しかし、定期的に入入があるわけではないため、活動資金不足の課題は今後も検討していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコアップ活動の開催15回（参加者176名）</li> <li>・イベント開催3回</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	市民団体が運営しているが、担い手が固定化・高齢化しており、若い後継者の育成が課題。また、活動資金も不足している。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

1 (3) 6	児童・生徒地域参加事業の推進	担当課	中央公民館
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
地域における異年齢児との交流活動、野外、体育レクリエーション活動、文化活動等の事業を推進します。		地域団体と協力し、児童・生徒が様々な体験をできる場を提供します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<p>・スポーツ、芸術、職業体験、キャンプ、地域のイベント（盆踊り）など、様々な内容の体験学習を通じ、異年齢児の交流や地域の大人とふれあう機会を創出した。 計91事業 参加者 延べ8,655人</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	公民館事業と地域や学校行事が重なる場合があるため、事前に公民館運営委員会等で地域や学校行事の予定を把握するとともに、公民館の事業予定について早期に周知を行う。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<p>・レクリエーション大会、物づくり等を通じて、異年齢児や異世代の住民との交流を図った。事業実施にあたっては、子ども会や体育振興会等の各種団体からの協力も得られ、地域で子どもを育てる事業となっている。 計83事業 参加者 延べ9,313人</p>		
	検証結果		
	今後の課題	夏休み期間中の平日に親子対象の事業を開催した際、共働き家庭の児童が参加しづらい傾向があった。学童の指導者による付き添いがあれば参加を可能とするなど、配慮が必要	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<p>・地域の方を講師に迎え、スポーツ・物づくり・季節のイベント（流しそうめん、かるた大会）といった体験学習を通じ、大人とのふれあいや参加者同士の交流を創出した。 計64事業、参加者 延べ8,582人</p>		
	検証結果		
	今後の課題	夏休み期間中の平日に親子対象の事業を開催した際、共働き家庭の児童が参加しづらい傾向があった。学童の指導者による付き添いがあれば参加を可能とするなど配慮が必要	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

1 (3) 7	自然観察等事業	担当課	博物館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童・生徒が身近な自然に親しみ理解する機会となるように、生物分野では「自然教室」、地質分野では「自然観察入門講座」、天文分野では「星を見る会」をそれぞれ実施します。		アンケート等を活用して保護者や参加者の意見を取入れ、子どもの興味関心を惹きつけられるような事業展開を行います。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	生物分野で「野鳥観察会」「みんなで調べよう セミのぬけがら調べ」を実施しました。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「おいしく学ぶキッチン火山実験」「小さくても偉大なプチ化石実物図鑑づくり」を実施しました。天文分野で「星を見る会」を実施しました。 ・野鳥観察会 1回実施 9人 (うち子ども3人) ・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 28人 (うち子ども15人) ・おいしく学ぶキッチン火山実験 1回実施 64人 (うち子ども30人) ・小さいけど偉大なプチ化石実物図鑑づくり 1回実施 77人 (うち子ども48人) ・みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」 4回実施 90人 (うち子ども50人) ・星を見る会 5回実施 366人 (うち子ども157人)		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	市民のニーズが多様化し、子どもを意識した事業が増えている中で、的確なテーマ設定と開催スケジュールが求められる。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	生物分野で「自然教室」「自然観察さんぽ会」を実施しました。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「おいしく学ぶキッチン火山実験」「小さくても偉大なプチ化石実物図鑑づくり」を実施しました。 ・自然教室 4回実施 31人 (うち子ども13人) ・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 33人 (うち子ども25人) ・おいしく学ぶキッチン火山実験 1回実施 130人 (うち子ども50人) ・小さいけど偉大なプチ化石実物図鑑づくり 1回実施 129人 (うち子ども49人) ・体験学習「生命の元 DNAを取り出そう」 2回実施 66人 (うち子ども39人) ・星を見る会 9回実施 728人 (うち子ども295人) ・糸つむぎ体験 2回実施 62人 (うち子ども21人)		
	検証結果		
	今後の課題	屋外で実施する事業については、天候等の影響が大きい	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	「水辺の楽校生きもの調べの会」は23年度をもって休止としたため、規模を昨年より縮小し、「自然教室」を実施しました。「自然観察入門講座」に加え、「おいしく学ぶキッチン火山実験」「小さくても偉大なプチ化石実物図鑑づくり」を実施しました。 ・自然教室 1回実施 9人 (うち子ども3人) ・おいしく学ぶキッチン火山実験 1回実施 126人 (うち子ども51人) ・小さいけど偉大なプチ化石実物図鑑づくり 1回実施 76人 (うち子ども46人) ・星を見る会 7回実施 639人 (うち子ども247人)		
	検証結果		
	今後の課題	屋外で実施する事業については、天候の影響が大きい	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			



1 (3) 8	プラネタリウム投影事業	担当課	博物館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童・生徒が宇宙や天文への関心と理解を深める機会となるように、投影を実施します。投影においては一般投影の他、幼稚園及び小・中学校向けの投影プログラムを準備し団体見学を受入れます。		幼稚園及び小・中学校向け投影については各教員の意見を取入れ、一般向け投影についてはアンケート結果を参考にしながら、プログラムを作成し、投影を行います。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施しました。</li> <li>・ 幼児向けの投影時間を設定して投影しました。</li> <li>・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数5449人 (うち こども4684人)</li> <li>・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数8352人 (うち こども2910人)</li> <li>・ 投影回数 394回</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	天体の研究や投影機器の機能が日々進歩する一方、投影機器やコントロール機材は日々経年劣化するため、更新が必要になる。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施しました。</li> <li>・ 幼児向けの投影時間を設定して投影しました。</li> <li>・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数6042人 (うち こども5083人)</li> <li>・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数8439人 (うち こども3031人)</li> <li>・ 投影回数 380回</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施しました。</li> <li>・ 幼児向けの投影時間を設定して投影しました。</li> <li>・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数6629人 (うち こども5372人)</li> <li>・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数8583人 (うち こども3388人)</li> <li>・ 投影回数 380回</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (3) 9	芸術文化子ども体験事業	担当課	社会教育課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>子どもたちが、長い歴史と伝統の中から生まれ守り伝えられてきた貴重な財産である芸術文化を体験することで、歴史、伝統、芸術文化に対する関心や理解を深め、豊かな人間性を育む機会を提供します。</p>		<p>小・中学校、平塚市文化連盟、地域教育力ネットワーク協議会及び公民館等と連携し、体験事業の実施を充実します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<p>○全体事業（12月12日開催） …市内小学生3～6年生を対象に「生け花」「お茶」「人形芝居」の体験教室を実施。 児童31名が参加</p> <p>○各地区事業（通年開催） …横内地区：「生け花」「琴」 …崇善地区：「生け花」 …金旭地区：「人形芝居」 …金目地区：「生け花」「お茶」「奇術」</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	事業未実施の地区にどう働きかけていくか	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>② 拡大して継続 地区単位としては15地区中4地区の実施になっているため。</p>	
平成26年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成25年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考（その他）</b>			

1 (4) 1	育児講座	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子育て家庭の不安感、負担感が軽減できるように乳幼児の健全な心身の発達、親・家庭の果たす役割及び親と子の関係等について学び、親の育児力の向上を図るため、育児講座を開催します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を開催したり、保護者との懇談会を実施します。</li> <li>・民生委員児童委員等の意見を伺い、地域のニーズに合う講座を開催します。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<p>保育所等で、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めた。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<p>子育て支援講演会「ほめことばは魔法の言葉～ほめるって…難しくありませんか～」を次のとおり開催した。          講師：吉澤 宏次さん          日時：平成27年1月31日 (土)          場所：平塚市保健センター          参加者：68組 (82名)          共催：平塚市社会福祉協議会</p> <p>・保育所において、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を積極的に実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めている。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<p>子育て支援講演会「子育てにゆとりをもちましょう！～父親が育児参加することの大切さ～」を次のとおり開催する予定であったが降雪のため中止。          講師：せいが保育園 園長 藤森平司さん          場所：平塚市青少年会館          参加者：定員100名 (先着)          共催：平塚市社会福祉協議会</p> <p>・保育所において、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を積極的に実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めている。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (4) 2	家庭教育支援の充実	担当課	中央図書館 中央公民館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
中央公民館で家庭教育講演会、各地区公民館で家庭教育学級を開催します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの読書活動を啓発するため、イベント等を開催します。</li> <li>・受講者アンケート等を基に、子育て世代の学習ニーズを捉えた講座を実施します。</li> <li>・平塚市子ども読書活動推進計画 (第三次) を策定中であり、新たな事業展開を予定しています。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で実施しました。(平成27年8月17日実施 参加者数 361名)</li> <li>・中央公民館大ホールにて、12月5日(土) 14:00～精神科医である名越康文氏を講師に迎え、「思春期の心と親心～今どきの親子のコミュニケーション術～」をテーマに家庭教育講演会を開催した。参加者 延べ 272名</li> <li>・各地区公民館では、子どもをやる気にさせるためのヒントや、また脳科学教育研究所から講師を招き、脳科学から学ぶ思春期の子育てのポイントの講座など、子育て世代のニーズに沿った内容で家庭教育学級を実施した。計112事業 参加者 延べ3,586人</li> <li>・平成27年2月に策定した平塚市子ども読書活動推進計画 (第三次) にて、家庭に向けた子ども読書活動を重点取組Ⅰとして、その啓発を進めた。</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	家庭教育講演会では平日夜間は「外出できない」という保護者からの意見を反映し、今年度は土曜日昼間の開催としたが、参加者が減少した。学校行事と重なってしまったこともあり、学校、PTA、子ども会、保育園、幼稚園など、家庭教育に関連のある団体との連携する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館大ホールにて、12月2日(火) 18:30～宇宙飛行士である山崎直子氏を講師に迎え、「子どもの無限の可能性～宇宙飛行士からのメッセージ～」をテーマに家庭教育講演会を開催した。参加者 延べ 399名</li> <li>・各地区公民館では親子を対象とした料理教室やスポーツイベント、地元の看護学校に協力を得て家庭で出来る応急処置を学ぶなど、多様なテーマで家庭教育学級を実施した。計112事業 参加者 延べ3,473人</li> <li>・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で実施しました。(平成26年8月7日実施 参加者数 606名)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	仕事を持つ保護者でも参加しやすいように平日夜間に家庭教育講演会を開催しているが、子どもが小さいと夜間の外出は難しいという意見が参加者から寄せられた。保育の実施、週末の開催等について検討する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館大ホールにて12月5日(木) 18:30～に脳科学者である澤口俊之氏を講師に迎え、「澤口式育脳法～子どもの脳力の育て方～」をテーマに家庭教育講演会を実施した。参加者 延べ521名</li> <li>・各地区公民館で不審者対策・おはなし会等をテーマに、家庭教育学級を実施した。講座内容は小・中学校PTA役員等の意見を参考に企画し、地域のニーズに沿った内容で実施している。計96事業、参加者 延べ3,016人・平成22年度から施行された平塚市子ども読書活動推進計画 (第二次) に基づき、関係機関等において事業(41事業)を展開しています。</li> <li>・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で実施しました。(平成25年8月17日実施 参加者数 586名)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	仕事を持つ保護者でも参加しやすいように平日夜間に家庭教育講演会を開催しているが、子どもが小さいと夜間の外出は難しいという意見が参加者から寄せられた。保育の実施、週末の開催等について検討する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 3	学習の場の充実	担当課	中央公民館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>男女がともに子育てに取り組むことができるように、男性のための事業等を推進するとともに、仕事を持つ親等も参加しやすい日時開催に努めます。</p>		<p>公民館事業を通して家族のふれあいが生まれるように親子を対象とした事業を今後も実施します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>・各地区公民館では「夏のナイターイースタンリーグを観戦しよう」や「親子ふれあい工作教室」等、男性保護者が参加しやすい内容で事業を開催し、男性保護者が子育てへ参加する機会を創出した。また、仕事を持つ親が参加しやすい環境を整備するため、親子を対象とした事業を土・日・祝日に開催した。 計80事業 参加者 延べ5,650人</p> <p>・男性を対象とした料理教室を実施した。 計6事業、延べ126人</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	子育て中の男性の参加は少しずつ増加しているが、全体的には女性の参加が多いので、男性が参加しやすい事業内容や環境を整備する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>・親子を対象とした事業では女性に比べて男性保護者の参加が少ないため、父親限定の「親子料理教室」や「一眼レフ講座」を開催した。 参加者 延べ38人</p> <p>・男性保護者の子育てに参加する機会を創出するため、「JAXA職員がやってくる」や「親子ビーチスポーツ体験」等、親子を対象とした事業を土・日・祝日に開催した。 計58事業 参加者 延べ2,848人</p> <p>・男性を対象とした料理教室を実施した。 計7事業、延べ113人</p>		
	検証結果		
	今後の課題	子育て中の男性を対象とした事業を単館・ブロック単位で実施すると、対象エリアが狭いため、対象者(育児中の男性)が少ない。中央・地区公民館合同事業としての開催を検討する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>・男性を対象とした料理教室を実施し、 計6事業、参加者 延べ187人</p> <p>・「親子科学教室」や農業体験等、親子を対象とした事業を実施。半数以上の事業が週末に開催され、男性が子育てに参加する機会作りを行った。 計38事業、参加者 延べ2,359人</p>		
	検証結果		
	今後の課題	子育て中の男性を対象とした事業を単館・ブロック単位で実施すると、対象エリアが狭いため、対象者(育児中の男性)が少ない。中央・地区公民館合同事業としての開催を検討する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 4	子育て支援地域派遣事業	担当課	保育課 健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域の子育てサークルや子育て支援活動等に保育士や保健師等を派遣し、育児に関する相談・支援を行います		地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士や保健師等を派遣し、育児情報の提供や育児相談、あそびの紹介等を実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル派遣 3回 (平成27年度実績)、子育て支援活動 150回 (平成27年度実績)</li> <li>・ 地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育てサークル 派遣回数：栄養1回 歯科1回</li> <li>2. 地区子育て広場 派遣回数：保健師23回 栄養15回 歯科13回 保育園、幼稚園での育児講座 栄養4回 歯科13回</li> <li>3. 子育て支援センター 派遣回数：保健師1回 歯科3回 栄養1回</li> </ol> </li> <li>・ 地区の要望に沿って対応している。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル 4回 (平成26年度実績) 子育て支援活動 144回 (平成26年度実績)</li> <li>・ 地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育てサークル 派遣回数：栄養1回</li> <li>2. 地区子育て広場 派遣回数：保健師24回 栄養12回 歯科12回 保育園、幼稚園での育児講座 栄養2回 歯科9回</li> <li>3. 子育て支援センター 派遣回数：保健師1回 歯科1回 栄養1回</li> </ol> </li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル 6回 (平成25年度実績) 子育て支援活動 145回 (平成25年度実績)</li> <li>・ 民間保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育てサークル 派遣回数：栄養1回 歯科1回</li> <li>2. 地区子育て広場 派遣回数：栄養12回 保健師25回 歯科10回 保育園、幼稚園での育児講座 歯科9回 保健師1回</li> <li>3. 子育て支援センター 派遣回数：保健師1回 歯科1回 栄養1回</li> </ol> </li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 5	地域福祉推進事業	担当課	福祉総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域福祉を推進するため、市民と行政との協働により、地域の子どもから高齢者までがお互いに助け合い、支え合う仕組みとしての町内福祉村の新設及び既設福祉村等の環境整備を支援します。		既存福祉村について活動の支援を行う他、福祉村未設置地区に出向き、本事業の説明やワークショップを実施していく中で、町内福祉村の普及啓発活動を行います。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	新たに1地区において、町内福祉村を開設 (全16地区) したほか、その他2地区において事業説明、現在1地区の開設に向けた準備を行っています。		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	町内福祉村活動に子どもから高齢者までより多くの市民参加が望まれます。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 市内地区公民館区25地区に分け設立を進めていますが、現在未設置の地区があり、住民主体の観点から行政主導ではない方法で設置箇所数を増やしていく必要があります。	
平成26年度	開設に向け3地区で話し合いを行い、1地区で年度内の開設が決定した。		
	検証結果		
	今後の課題	今後の福祉村づくりにおいては、地域づくりの拠点としてのまちづくりセンターとの連携を視野に入れた検討をしていくことが必要であり、協働推進課や中央公民館など、庁内関係課との密接な連携が重要であると考えている。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	新たに2地区において、町内福祉村を開設 (全15地区) したほか、その他3地区において事業説明、開設に向けた話し合いを行った。		
	検証結果		
	今後の課題	今後の福祉村づくりにおいては、地域づくりの拠点としてのまちづくりセンターとの連携を視野に入れた検討をしていくことが必要であり、協働推進課や中央公民館など、庁内関係課との密接な連携が重要であると考えている。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (4) 6	保育所のボランティアの受入れ	担当課	保育課
---------	----------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
園児とのふれあいを通して、保育の基礎的な知識や技術を習得してもらい、地域への社会奉仕活動への参加を図るため、小・中学生、高校生の保育実習及び地域の保育ボランティアの受入れを行います。	小・中学生・高校生の社会（職業）体験学習や保育実習の場を提供したり、地域のボランティアや絵本の読み聞かせボランティア等の受入れをします。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みに高校生の保育実習の受入れ 99人 38園で実施 (平成27年度実績)</li> <li>小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時行っている。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みに高校生の保育実習の受入れ 122人 33園で実施 (平成26年度実績)</li> <li>その他、小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時積極的に行っている。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みに高校生の保育実習の受入れ 78人 33園で実施 (平成25年度実績)</li> <li>その他、小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時積極的に行っている。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>	



1 (4) 7	非行防止活動の推進	担当課	青少年課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>心豊かで、規範意識・遵法精神・社会性が向上した青少年を一人でも多く育成するため、社会を明るくする運動を通して、講演会や街頭啓発キャンペーン等を行います。</li> <li>愛護指導活動、相談活動を行います。</li> <li>青少年指導員による環境浄化活動を行います。</li> </ul>		青少年の非行を防止するため、学校及び地域と協力し、パトロールを実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>月～金曜日まで毎日通常愛護指導を実施 (指導件数 1, 361件)</li> <li>七夕等イベント時や夜間・登校時などの特別愛護指導を実施 (指導件数 393件)</li> <li>中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち12校区は各1回、2校区を2回、1校区を3回実施、指導件数は32件)</li> <li>社会を明るくする運動を各地区において開催 (23地区実施、延べ5, 926人参加)</li> <li>社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (49人参加)</li> <li>青少年指導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施 (1回、指導件数4件)</li> <li>神奈川県平塚警察署少年補導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールを実施 (1回、指導件数0件)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	市内のたまり場の移動など青少年の問題行動等が年々変化しているため、学校・地域関係団体と常に情報を共有しつつ、協力して取り組む必要があります。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 青少年の非行・問題行動等を防止するためには、学校・地域関係団体との現在の協力体制を維持しつつ、継続的に取り組む必要があります。	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>月～金曜日まで毎日通常愛護指導を実施 (指導件数 1881件)</li> <li>七夕等イベント時や夜間などに特別愛護指導を実施 (指導件数 367件)</li> <li>中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち10校区は各1回、4校区を2回、1校区を3回実施、指導件数は79件)</li> <li>社会を明るくする運動を各地区において開催。(22地区実施、延べ4292人参加)</li> <li>社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (55人参加)</li> <li>青少年指導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施。(1回、指導件数10件)</li> <li>神奈川県平塚警察署少年補導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施。(1回、指導件数3件)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>月～金曜日まで毎日通常愛護指導を実施 (指導件数2398件)</li> <li>七夕等イベント時や夜間などに特別愛護指導を実施 (指導件数344件)</li> <li>中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち12校区は各1回、2校区を2回、1校区を3回実施、指導件数109件)</li> <li>社会を明るくする運動を各地区において開催。(23地区実施、延べ5616人参加)</li> <li>社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (60人参加)</li> <li>神奈川県平塚警察署少年補導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施。(1回、指導件数2件)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 8	こころと命のサポート事業	担当課	福祉総務課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
地域において実施しているおはなし会や読み聞かせ、読み語り等の中で、「命の大切さ、尊さ」をテーマに取り上げてもらうことで、命の大切さ、尊さを普及・啓発し、自殺対策を推進します。	地域で活動している団体等に、本事業についての理解を深めてもらい、おはなし会、読み聞かせ、読み語りの中で「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうように働きかけを行い、命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況</p> <p>①花水小学校 64回のべ約9,148人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)</p> <p>②なでしこ小学校 28回のべ約4,195人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)</p> <p>③花水台保育園 38回のべ約3,602人(1～5歳児クラスで実施。)</p> <p>④花水公民館 23回389人</p> <p>⑤平塚工科高等学校 1回16人</p> <p>合計 1地区 実施回数154回 のべ約17,350人</p>	
	検証結果	A:成果があがった
	今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取組として定着してきていますが、この取組が他地区へも広がっていくことが望まれます。地域で活動している団体等に「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうよう働きかけを行うだけでなく、小中学校へもリストの活用や、図書室での「いのちの尊さをつたえる本」コーナー設置等の協力を依頼し、連携して命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成26年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況(平成27年3月31日現在)</p> <p>①花水小学校 144回のべ約4700人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)</p> <p>②なでしこ小学校 73回のべ約3500人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)</p> <p>③花水台保育園 78回のべ約2500人(週1回の読み聞かせで1～5歳児クラスで実施。)</p> <p>④花水公民館 14回のべ約240人</p> <p>⑤神田中学校 1回16人</p> <p>⑥平塚工科高等学校 1回13人</p> <p>合計 2地区 実施回数311回 のべ約10969人</p>	
	検証結果	
	今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成25年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況①花水小学校 のべ27回834人②なでしこ小学校 のべ27回759人③花水台保育園 のべ34回470人 ※①②については朝の読み聞かせの時間等に実施。③については週1回の読み聞かせで1～5歳児クラスで実施 ④命・平和・戦争の本の展示 1回のべ565人⑤命と心の授業3回90人⑥命と心の読書授業3回120人⑦戦争と平和の授業3回90人⑧朝のよみがたり1回32人④～⑧については金目小学校で実施 2地区開催、合計のべ実施回数99回 合計のべ参加者数2960人</p>	
	検証結果	
	今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考(その他)</b>	

2 (1) 1	一時預かり事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>保護者の断続的な就労、病気や育児疲れの解消等の理由で、子どもの保育ができないときの緊急・一時的な保育を行います。〔対象：就学前児童〕</p>		<p>施設型給付の幼稚園や民間保育所でも一時預かりを実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<p>・民間保育所18園で実施 (延べ利用児童数15,105人 平成27年度実績)</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<p>・民間保育所17園で実施 (延べ利用児童数14,141人 平成26年度実績)</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<p>・民間保育所16園で実施 (延べ利用児童数13,815人 平成25年度実績)</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 2	ファミリー・サポート事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての援助を受けたい方 (依頼会員) と子育ての援助を行いたい方 (支援会員) を組織化し、幼稚園・保育所等への送迎及びその前後の預かり等の育児の援助活動の橋渡しを行います。〔依頼会員：0歳からおおむね9歳までの児童の保護者〕		支援会員に対する講習時間を段階的に増やし、支援サービスの向上を図ります。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> </ul> <p>※平成27年度実績            会員数：支援会員314名、依頼会員1,162名、両方会員42名            活動件数：2,045件</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員の懇談会を2回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> </ul> <p>※平成26年度実績            会員数：支援会員284名、依頼会員1,036名、両方会員42名            活動件数：2,904件</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員の懇談会を2回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> </ul> <p>※平成25年度実績            会員数：支援会員284名、依頼会員979名、両方会員40名            活動件数：3,377件</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 3	ショートステイ事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>保護者の病気等により家庭において養育を受けることができない児童について、児童養護施設等での必要な保護を行います。〔対象：就学前児童及び小学生〕</p>		<p>今後のニーズや地域の実情を踏まえて、事業の実施について研究、検討します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>平成26年12月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」の結果を集計・分析し、ショートステイ事業についてのニーズ量を算出した結果、ニーズ量は5年間で0人となっている。現在、本市では事業を実施していない。</p>		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題	ニーズや地域の実情などを踏まえた事業のあり方を検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p> <p>現時点では、ショートステイに関する問い合わせはなく、ニーズを見いだせない状況にあり、事業化は難しいと考えている。</p>	
平成 26 年度	<p>平成27年度から始まる平塚市子ども・子育て支援事業計画の策定に当たり、平成26年12月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」の結果を集計・分析し、ショートステイ事業についてのニーズ量を算出した結果、ニーズ量は5年間で0人となっております。ただし、今後もニーズや地域の実情を踏まえて、事業の実施について検討していきます。</p>		
	検証結果		
	今後の課題	今後も継続して、ショートステイ事業についてのニーズ把握に努めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>市内肢体不自由児療護施設での受け入れ可能性について視察し、事業委託等について状況を確認した。 (関連事項) 県中央児童相談所において、保護者又は家族の病気や事故、出産など、緊急な出来事により一時的に家族で子どもの養育ができないとき、施設でお預かりする場合があります。</p>		
	検証結果		
	今後の課題	市内に児童養護施設がない中での事業の引き受け先の確保が必要であり、他市における利用状況を考えると慎重に検討していく必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 4	特別保育拡充事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所において、延長保育、障がい児保育、休日保育を行います。〔対象：就学前児童〕		引続き、延長保育、障がい児保育、休日保育を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育 (全園で実施)</li> <li>・障害児保育 (全園で受入れ可)</li> <li>・休日保育 (1園で実施)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育 (全園で実施)</li> <li>・障害児保育 (全園で受入れ可)</li> <li>・休日保育 (1園で実施)</li> </ul> (関連事項) 保護者の多様な就労形態に対応するための特定保育事業を7園で実施している。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育 (全園で実施)</li> <li>・障害児保育 (全園で受入れ可)</li> <li>・休日保育 (1園で実施)</li> </ul> (関連事項) 保護者の多様な就労形態に対応するための特定保育事業を8園で実施している。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 5	私立幼稚園の預かり保育の推進	担当課	教育総務課
---------	----------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
県と連携を取りながら、地域の保育需要に対応した、私立幼稚園における預かり保育の充実を図ります。 〔対象：3歳から就学前児童〕	引続き事業を継続します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	市内私立幼稚園全てで実施いただいた。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	子ども子育て支援新制度へ移行予定の園に対して、長時間預かり保育支援事業を周知し、制度の活用を検討いただく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	市内私立幼稚園全てで実施。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	市内私立幼稚園全てで実施。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>

2 (1) 6	病後児保育	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子どもが病気の回復期にあるときに、保護者が仕事や病気等により自宅で看病ができない場合に対応するため、病後児保育を行います。</p>		<p>利用者の声や地域のニーズを把握し、利用しやすくなるように工夫しながら事業を実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<p>市内1か所で実施。 平成27年度実績延べ利用児童数 265名</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<p>市内1か所で実施。 平成26年度延べ利用児童数 177名</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<p>平成25年8月に病後児保育室1か所を開設した。 平成25年度延べ利用児童数 43名</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			



2 (1) 7	学童保育の充実・推進	担当課	青少年課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>学童保育の充実を図るため、学童保育指導員を対象とした市主催の研修を推進します。また、近年、県等主催の研修が充実してきたため、より多くの研修機会が持てるように、情報提供し、参加を促進します。〔対象：小学生〕</p>		<p>県や、外部機関等の研修について情報提供するとともに、市主催の研修については、外部機関の研修内容を踏まえ、実践的な研修を実施します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>学童保育指導員を対象に放課後児童健全育成事業研修会を実施した。 ※7月 普通救命講習 2日間 参加者97名 ※1月 発達の気になるお子さんへの支援 1日 参加者62名</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
平成 26 年度	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
	検証結果		
	今後の課題		
平成 25 年度	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
	検証結果		
	今後の課題		
<b>備考（その他）</b>			

2 (1) 8	放課後等子どもの居場所づくり推進事業	担当課	社会教育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
放課後や土曜日等に、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、子どもたちが学習や文化活動、地域住民との交流活動などを継続的に体験できる取組みを推進します。		放課後や土曜日等に、子どもたちが文化・スポーツ、自然体験など様々な活動をする機会を増やします。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<p>○放課後子ども教室 八幡地区 「やわた子ども村」 実施</p> <p>○土曜日の教育支援体制等構築事業 横内地区 「横内マイタウンスクール」 実施</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業未実施の地区にどう働きかけていくか	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>② 拡大して継続</p> <p>「放課後子ども教室」の他地域への拡大や、「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」の実施を推進し、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。</p>	
平成26年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成25年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 9	放課後子ども総合プランの推進	担当課	青少年課 教育総務課 社会教育課
---------	----------------	-----	------------------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<p>厚生労働省と文部科学省が策定した「放課後子ども総合プラン」の趣旨にのっとり、全ての子どもたちが放課後等を安全、安心に過ごし、多様な体験、活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的あるいは連携した取組みを推進します。</p>	<p>放課後児童クラブと放課後子ども教室との一体的あるいは連携した取組みを、地域の団体や学校等と連携して検討していきます。</p> <p>【検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室について、その実施主体の検討を行うとともに、設置が必要と判断される場合には、平成31年度までの間を目途にその整備計画について検討します。</li> <li>・放課後子ども教室を設置する場合には、放課後児童健全育成事業と一体的又は連携して実施するように検討します。</li> <li>・小学校の余裕教室等の利用状況を定期的に調査し、放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室への活用の可能性について検討していきます。</li> </ul>

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<p>放課後児童健全育成事業の立場から放課後児童クラブと放課後子ども教室との一体的あるいは連携した取組みに向けて、関係三課が協議した。 平塚市放課後等子どもの居場所づくり運営委員会を実施した（平成28年1月21日）。</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブや放課後子ども教室が学校施設を活用するにあたってのセキュリティ対策や管理責任等の明確化が必要。</li> <li>・事業未実施の地区にどう働きかけていくか</li> </ul>
	今後の事業展開とその判断理由	<p>② 拡大して継続</p> <p>「放課後子ども教室」の他地域への拡大を図ることで、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。</p>
平成26年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	
平成25年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

備考（その他）	
---------	--

2 (1) 10	民間保育所施設整備支援事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所待機児童の解消や保育サービスの充実を図るため、社会福祉法人立保育所の施設整備に対して助成を行います。		入所児童の安全性や生活環境の改善を図るために民間保育所を対象に引き続き助成します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人立保育所5園の小規模な施設の修繕に対して助成</li> <li>・社会福祉法人立保育所1園増改築及び1園新設に係る整備費等に対して助成 (※平成26年, 27年の2か年による整備 増改築 定員 20名増) (※平成26年, 27年の2か年による整備 新設 定員130名)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人立保育所5園の小規模な施設の修繕に対して助成</li> <li>・社会福祉法人立保育所2園増改築及び1園新設に係る整備費等に対して助成 (※平成25年, 26年の2か年による整備 定員20名増) (※平成26年, 27年の2か年による整備 定員20名増及び新設)</li> <li>・社会福祉法人立保育所分園2園新設に係る整備費等に対して助成</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人立保育所5園の小規模な施設の修繕に対して助成</li> <li>・社会福祉法人立保育所1園増改築に係る整備費等に対して助成 (※平成25年, 26年の2か年による整備 定員20名増)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 11	公立保育所施設整備事業	担当課	保育課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>安心・安全・快適な保育環境の向上や地域への子育て支援の充実を図るため、老朽化した公立保育所の施設整備を行います。</p>		<p>公立保育所において修繕を実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<p>公立保育所10園の老朽化に伴う施設、設備等の小規模な修繕の実施</p>		
検証結果	A：成果があがった		
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続		
	金田保育園の廃園に伴い9園で実施していく		
平成26年度	<p>公立保育所10園の老朽化に伴う施設、設備等の小規模な修繕の実施</p>		
検証結果			
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成25年度	<p>公立保育所10園の老朽化に伴う施設、設備等の小規模な修繕の実施</p>		
検証結果			
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
備考（その他）			

2 (1) 12	私設保育施設等交流事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
私設保育施設の保育士や児童を公立保育所に招き、また、保育士が私設保育施設に訪問して、保育に関する支援や児童の交流を図ります。		市内私設保育施設のニーズを踏まえ、事業を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	なし		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止 これまで交流のあった認定保育施設は全て認可保育所になったので、事業は廃止する。	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立保育所保育士の全体研修会 (年1回) に市内の私設保育施設等の保育士が参加し、交流を図っている。全体研修会1回実施、私設保育施設の参加はなし。</li> <li>私設保育施設のうち、認定保育施設1施設と公立保育所3施設が職員・園児の人的交流及び、障がい児保育を含めた保育の技術的交流を図っている。交流回数等：職員交流合計6回延べ61人 (公立保育所職員訪問3人、認定保育施設職員来園4人) 園児交流合計5回延べ337人 (公立保育所園児訪問0人、認定保育施設園児来園19人、園外合同保育286人)</li> <li>主な交流内容 職員が保育の運動会・発表会・納涼会等の見学等を通して交流 園児 (年長児) 行事・遊び (交通安全教室、花畑遠足、芋苗植え、芋掘りなど) を通じて交流</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 交流する園を増やして公立保育園・私設保育施設相互の保育の向上を目指すため	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立保育所保育士の全体研修会 (年1回) に市内の私設保育施設等の保育士が参加し、交流を図っている。全体研修会1回実施、2施設延べ2人参加。</li> <li>私設保育施設のうち、認定保育施設2施設と公立保育所3施設が職員・園児の人的交流及び、障がい児保育を含めた保育の技術的交流を図っている。交流回数等：職員交流合計7回延べ44人 (公立保育所職員訪問5人、認定保育施設職員来園6人) 園児交流合計6回延べ229人 (公立保育所園児訪問26人、認定保育施設園児来園44人、園外合同保育106人)</li> <li>主な交流内容 職員が保育の運動会・発表会・納涼会等の見学等を通して交流 園児 (年長児) 行事・遊び (交通安全教室、ドッジボール大会、芋掘りなど) を通じて交流</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 交流する園を増やして公立保育園・私設保育施設相互の保育の向上を目指すため	
備考 (その他)			

2 (1) 13	私設保育施設への支援	担当課	保育課
----------	------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
児童の健康診断、職員の保菌検査、施設賠償責任保険の諸経費に対して助成を行います。	新たな子ども・子育て支援制度の状況を見極めながら、補助の内容を見直します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	私設保育施設 6 施設に助成。	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	私設保育施設 1 2 施設に助成。	
	検証結果	
	今後の課題	当該補助の継続により、指導基準遵守について各施設への指導を強化する
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	私設保育施設 1 3 施設に助成。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

2 (1) 14	幼保一元化のモデルケース事業	担当課	保育課 教育総務課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
港幼稚園と須賀保育園を統合する「幼保連携型認定こども園」として(仮称)港地区認定こども園を開設します。		平成27年度中の整備着工、28年度の整備完了、29年度の供用開始を目指します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年9月に工事着工（平成29年2月末まで）</li> <li>・（仮称）港地区認定こども園の整備に関する検討会ワーキングを5回開催</li> <li>・（仮称）港地区認定こども園の整備に関する検討会を1回開催</li> <li>・他市町村の認定こども園への視察を2回実施</li> <li>・建設工事の開始に係る地元説明会を1回実施</li> <li>・認定こども園化に係る港幼稚園在園保護者説明会を1回実施</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	定期的にワーキングを実施し、認定こども園の整備及び開園後の運営に係る課題について継続して検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成25年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考（その他）			



2 (1) 15	公立園の在り方の検討	担当課	保育課 教育総務課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
公立幼稚園5園、公立保育所10園については、その在り方について庁内検討会で検討し、協議してきましたが、平成24年度にまとめた「平塚市幼保一元化に関する検討会中間報告」を基に協議を進めています。		新たな子ども・子育て支援制度の状況を見極めながら、公立園の在り方を検討します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告に基づく公立園の再編をどのように進めていくか、保育課と教育総務課にて検討した。</li> <li>・平塚市公立園再編検討会を開催し、「平塚市幼保一元化に関する検討会中間報告」に掲げられた公立園再編に向けて検討した。</li> <li>・上記と並行して、公立幼稚園と保育園の統合や民営化について企画政策課と協議を行い、花水台保育園については民営化、土屋幼稚園と吉沢保育園については統合し認定こども園とする方向性となった。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合・廃止・民営化の対象となる園を具体的に選定し、方向性を決めていく。</li> <li>・耐震改修の必要性や中間報告の趣旨を踏まえ、さらに統合・廃園に向けた検討を進める必要がある。</li> </ul>	
平成26年度	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
	検証結果		
	今後の課題		
平成25年度	今後の事業展開とその判断理由	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。	
	検証結果		
	今後の課題		
<b>備考（その他）</b>			

2 (2) 1	子育て支援センター事業	担当課	保育課
---------	-------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
子育て家庭に対する育児不安等についての相談支援、各種子育てに係る情報提供、親子の気軽な交流の場としての子育てサロンの運営、子育てサークルや子育て支援活動への支援を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕	安心して子育てができるように引続き子育て支援センター事業を推進します。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<p>・1ヶ所実施。 利用者数：大人9,932名、子ども12,474名、合計22,406名 相談件数：面接2,806件、電話30件、その他513件</p> <p>一日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成26年度	<p>・1ヶ所実施。 利用者数：大人8,397名、子ども10,700名、合計19,097名 相談件数：面接1,933件、電話14件、その他415件</p> <p>一日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td></td> </tr> </table>	検証結果	
	検証結果		
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成25年度	<p>・1ヶ所実施。 利用者数：大人8,702名、子ども11,042名、合計19,744名 相談件数：面接1,568件、電話24件、その他577件</p> <p>一日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td></td> </tr> </table>	検証結果	
	検証結果		
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td></td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由		
今後の事業展開とその判断理由			

備考 (その他)

2 (2) 2	つどいの広場事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
主に乳幼児を持つ親と子どもが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合うことで、精神的な安心感をもたらし、問題解決への糸口となる機会(場)を提供します。〔対象：おおむね0～3歳児及び保護者〕		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年4月から新たなつどいの広場1か所を開設できるように準備を進めます。</li> <li>安心して子育てができるように引続きつどいの広場事業を推進します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>3か所で実施。</li> <li>月に1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。</li> <li>「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,726名、子ども4,830名、合計9,556名 相談件数：711件</li> <li>「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人8,305名、子ども9,318名、合計17,623名 相談件数：1060件</li> <li>「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,988名、子ども4,591名、合計8,579名 相談件数：500件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>3か所で実施。</li> <li>月に1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。</li> <li>「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,461名、子ども4,833名、合計9,294名 相談件数：844件</li> <li>「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人8,662名、子ども10,066名、合計18,728名 相談件数：1,253件</li> <li>「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人4,586名、子ども5,433名、合計10,019名 相談件数：243件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>3か所で実施。</li> <li>月に1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。以下は平成25年度実績</li> <li>「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,660名、子ども4,976名、合計9,636名 相談件数：876件</li> <li>「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人8,369名、子ども9,454名、合計17,823名 相談件数：1,934件</li> <li>「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人5,282名、子ども6,292名、合計11,574名 相談件数：229件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (2) 3	開放保育事業	担当課	保育課
---------	--------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
地域の未就園児とその保護者に保育所の園庭や施設を開放し、園児との交流や保護者同士の交流を図り、保育士による育児相談や情報提供を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕	保育所29園で概ね週1回程度、保育所を開放し、育児情報の提供や育児相談等を実施します。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所30園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所29園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し、育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所29園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し、育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>	

2 (2) 4	赤ちゃん広場事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所が、1歳未満の乳児を育てる親を対象に、育児不安等についての相談、子育てに係る情報の提供、親子の気軽な交流の場の提供を行います。〔対象：1歳未満の乳児及び保護者〕		公立保育所5園で、育児不安等についての相談を受けたり、子育てに係る情報の提供を実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	・公立保育所5園で実施 (月2回)  <b>【平成27年度実績】</b> 金田保育園・・・実施 23回、参加 21組 須賀保育園・・・実施 22回、参加 56組 花水台保育園・・・実施 24回、参加 78組 夕陽ヶ丘保育園・実施 23回、参加103組 若草保育園・・・実施 23回、参加 13組 合 計・・・実施115回、参加271組		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 金田保育園の廃園に伴い規模を縮小して実施する	
平成26年度	・公立保育所5園で実施 (月2回)  <b>【平成26年度実績】</b> 金田保育園・・・実施 21回、参加 88人 須賀保育園・・・実施 23回、参加 80人 花水台保育園・・・実施 24回、参加172人 夕陽ヶ丘保育園・実施 24回、参加145人 若草保育園・・・実施 24回、参加 5人 合 計・・・実施116回、参加490人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	・公立保育所5園で実施 (月2回) ・こども総合相談窓口担当保育士が各園を訪問し (月1回)、授乳・離乳食・予防接種等に関する育児相談への対応、タッチケア指導等を行っている。 <b>【平成25年度実績】</b> 金田保育園・・・実施 23回、参加 32人 須賀保育園・・・実施 24回、参加154人 花水台保育園・・・実施 24回、参加155人 夕陽ヶ丘保育園・実施 24回、参加220人 若草保育園・・・実施 24回、参加 5人 合 計・・・実施119回、参加566人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (2) 5	親子ふれあい体験事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育て中の親子が楽しく遊び、共通の体験活動を通しながら親子のふれあいが実感できる場を提供します。〔対象：就学前児童〕		子育て中の親子が参加できるミニミニ運動会を市内公民館等で実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月20日(水) 神田公民館・・・43人 6月9日(火) なぎさふれあいセンター・・・47人 6月17日(水) 金田公民館・・・15人 11月18日(水) びわ青少年の家・・・27人 参加児童数合計：132人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
平成 26 年度	・地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月22日(木) 神田公民館・・・42人 6月10日(火) なぎさふれあいセンター・・・74人 11月19日(水) びわ青少年の家・・・49人 12月12日(金) 金田公民館・・・23人 参加児童数合計：188人		
	検証結果		
	今後の課題		
平成 25 年度	・地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月24日(金) 神田公民館・・・50人 6月11日(火) なぎさふれあいセンター・・・93人 7月12日(金) 金田公民館・・・43人 11月13日(水) びわ青少年の家・・・25人 参加児童数合計：211人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (2) 6	ブックスタート事業	担当課	中央図書館 保育課 健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
0歳から、全ての乳児とその保護者が絵本を通して楽しい時間を過ごすとともに、豊かな子どもの心を育て、親子の絆を養ってもらえるように子育てを支援します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフが丁寧にブックスタート事業の趣旨を伝えることで参加者の高い満足度を維持するとともに、参加しにくい方への広報と参加機会の拡充に努め、参加率向上を図ります。</li> <li>・公立保育所において、地域のボランティアによる読み聞かせを実施します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 会場開催44回(健康課「すくすく子育て教室」開催に合わせた実施12回、つどいの広場「きりんのうち」3回)、個別対応93組</li> <li>・施設数 7か所</li> <li>・参加者数 2,384人(参加組数919組、対象乳児911人、保護者1,230人、兄弟等243人、参加率50.4%)</li> <li>・市民ボランティア63人(登録者数)</li> <li>・配布絵本 919冊</li> <li>・配布絵本内訳『じゃあじゃあびりびり』(偕成社)384冊、『いないいないばあ』(童心社)187冊、『もこもこもこ』(文研出版)308冊、『だっだあー』(主婦の友社)25冊、『くだもの』(福音館書店)15冊</li> <li>・公立保育園10園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施</li> </ul>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	・参加率の向上	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 ・健康課主催の「すくすく子育て教室」(年12回)終了に伴い、新規事業の「7ヶ月児相談」(年36回)にてブックスタートの実施を予定している。これにより、実施回数が増加するため。 ・金田保育園の廃園に伴い公立保育園の実施箇所数は9カ所に減少。		
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 会場開催42回(試行3回を含む、健康課「すくすく子育て教室」開催に合わせた実施12回)、個別対応93組</li> <li>・施設数 7か所(つどいの広場「きりんのうち」での試行開催を含む)</li> <li>・参加者数 2,466人(参加組数931組、対象乳児925人、保護者1,294人、兄弟等247人 参加率51.2%)</li> <li>・市民ボランティア67人(登録者数)</li> <li>・配付絵本931冊</li> <li>・配付絵本内訳「じゃあじゃあびりびり」(偕成社)373冊、「もこもこもこ」(文研出版)311冊、「いないいないばあ」(童心社)201冊、「だっだあー」(主婦の友社)29冊、「くだもの」(福音館書店)17冊</li> <li>・公立保育園10園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	0歳児集団健診等がないため、対象乳児と保護者に一斉に実施または周知する機会がない。冬季は天候や感染症の流行などにより、例年参加者が減少する。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 会場開催37回(試行1回を含む、健康課「すくすく子育て教室」開催に合わせた実施12回)、個別対応86組</li> <li>・施設数 7か所(つどいの広場「きりんのうち」での試行開催を含む)</li> <li>・参加者数 2,439人(参加組数931組、対象乳児918人、保護者1,246人、兄弟等275人 参加率49.5%)</li> <li>・市民ボランティア54人(登録者数)</li> <li>・配付絵本931冊</li> <li>・配付絵本内訳「じゃあじゃあびりびり」(偕成社)382冊、「もこもこもこ」(文研出版)350冊、「いないいないばあ」(童心社)155冊、「だっだあー」(主婦の友社)31冊、「くだもの」(福音館書店)13冊</li> <li>・公立保育園10園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	冬季は天候や感染症の流行などにより、例年参加者が減少する。ポリオ集団接種が平成24年度後半から中止になったため、広報の場が減少した。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
<b>備考 (その他)</b>			

2 (2) 7	活動場所の確保	担当課	青少年課 中央公民館
---------	---------	-----	---------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
子育てサークル等の活動場所として、子どもの家や青少年会館等を活用します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年団体、青少年育成団体が活動場所の確保が容易になるように上記団体への優先的な施設予約を継続します。</li> <li>・仲間づくりの場、地域交流の場として公民館が活用されるよう努めます。</li> </ul>

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年会館では、子育てサークル等の青少年（育成）団体が優先的に予約できる環境を継続している。</li> <li>・子育てサークル等の自主活動で定期的な公民館の利用がある。</li> <li>・各地域の主任児童委員が実施する「子育てサロン」や町内福祉村の「子育て支援」の会場予約・実施日の周知に協力するなど、地域の子育て支援活動の協力も行っている。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	新改築工事を行う公民館ではおむつ替えシートの設置等、乳幼児連れでも来館しやすい設備の設置を心掛けているが、既存の公民館では構造上の問題もあり難しい。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年会館は、H26年度も昨年同様、引き続き、子育てサークル等の青少年団体が優先的に予約できる環境とした。</li> <li>・子育てサークル等の自主活動で定期的な公民館の利用がある。</li> <li>・社会福祉協議会主催「こそだて広場」の会場予約・実施日の周知に協力するなど、地域の子育てイベントへの協力も行っている。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	今後新改築工事を行う公民館では、おむつ替えシート等の乳幼児連れでも来館しやすい設備の積極的な設置を心掛けているが、既存の公民館では構造上の問題もあり難しい。青少年会館の老朽化が目立ち、現状維持をしていくために、修繕等に相当な費用が掛かることが今後予想される。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年会館では、引き続き、子育てサークルなどが優先的に予約ができる環境とした。</li> <li>・子どもの家ではこども家庭課主催の「おやこ広場」などを実施して、場所の提供をした。</li> <li>・子育てサークル等の自主活動で定期的な公民館の利用がある。</li> <li>・子育て中の保護者と乳幼児・児童が公民館を身近に感じられるよう、おはなし会等のイベントを開催している。</li> <li>・ロビースペースが比較的広い公民館では、子育て関連のチラシを1ヶ所にまとめることにより、利用者にとって必要な情報を見つけやすい配架を行った。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	今後新改築工事を行う公民館では、おむつ替えシート等の乳幼児連れでも来館しやすい設備の積極的な設置を心掛けているが、既存の公民館では構造上の問題もあり難しい。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>	



2 (3) 1	情報提供の推進	担当課	保育課 こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育て家庭向け、情報誌・インターネット等により子育てに関する情報を分かりやすく発信します。		広報紙やインターネット等、様々な方法で子育てに関する情報をより広く、分かりやすく提供します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てガイド「くすくす」を発行。(4, 200部)</li> <li>・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。</li> <li>・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。(発信回数27件)</li> <li>・FM湘南ナパサでの保育所入所、各種手当のほか、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方(毎月1回:計12回)や手づくりおもちゃ(毎月1回:計12回)等子育てに関する情報を提供。</li> <li>・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。</li> <li>・子育て情報マップを公共の場所等に配布(200部)</li> </ul>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	子育て情報マップのリニューアル	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てガイド「くすくす」を発行。(3,500部)</li> <li>・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。</li> <li>・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。(発信回数31件)</li> <li>・FM湘南ナパサでの保育所入所、各種手当のほか、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方(毎月1回:計12回)や手づくりおもちゃ(毎月1回:計12回)等子育てに関する情報を提供。</li> <li>・子育て情報マップを公共の場所等に配布(3,400部)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てガイド「くすくす」を発行。(3,500部)</li> <li>・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。</li> <li>・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。(発信回数27件)</li> <li>・FM湘南ナパサでの保育所入所、各種手当のほか、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方(毎月1回:計12回)や手づくりおもちゃ(毎月1回:計12回)等子育てに関する情報を提供。</li> <li>・子育て情報マップを公共の場所等に配布(3,400部)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (3) 2	子育て支援総合コーディネート事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>既存の社会資源を有効に活用するため、県児童相談所や関係機関等と連携し、地域における多様な子育て支援サービス情報を一元的に把握して、ネットワーク化を図り、利用者への情報提供、ケースマネジメント及び利用援助等の支援を行うとともに、子育て家庭や保育所からの専門的な相談に対応します。</p>		<p>引続き事業を継続します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。</li> <li>・ 公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。</li> <li>・ 市内子どもの家4か所にて1か月に1回親子広場（48回開催）：463人の親子が参加・126件の相談に対応</li> <li>・ 母子手帳交付窓口を開設し、妊婦の相談に対応。</li> <li>・ 母子手帳 新規133件発行</li> <li>・ 家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。相談・虐待通告件数 776件</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。</li> <li>・ 公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。</li> <li>・ 市内子どもの家4か所にて1か月に1回親子広場48回開催）：734人の親子が参加・106件の相談に対応</li> <li>・ 母子手帳交付窓口を開設し、妊婦の相談に対応。</li> <li>・ 母子手帳 新規176件発行</li> <li>・ 家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。相談・虐待通告件数 653件</li> <li>・ 養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有をし連携、関係機関に繋ぐ。述べ11件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。</li> <li>・ 公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。</li> <li>・ 市内子どもの家4か所にて1か月に1回親子広場48回開催）：684人の親子が参加・57件の相談に対応</li> <li>・ 母子手帳交付窓口を開設し、妊婦の相談に対応。</li> <li>・ 母子手帳 新規204件発行</li> <li>・ 家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。相談・虐待通告件数497件</li> <li>・ 養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有をし連携、関係機関に繋ぐ。延べ10件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (3) 3	幼稚園・保育所の育児相談	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>幼稚園や保育所を利用している保護者や地域の子育て家庭を対象に、電話や面接により、子育てについての不安や悩みの相談を行います。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容によっては関係機関と連携を図ります。</li> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園を希望する保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行います。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容によっては関係機関と連携を図った。</li> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。 実施園：5園</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容によっては関係機関と連携を図っている。</li> <li>・事業の内容については、ホームページ、入所案内、子育てガイド「くすくす」などで周知した。</li> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。 実施園：5園</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容によっては関係機関と連携を図っている。</li> <li>・事業の内容については、ホームページ、入所案内、子育てガイド「くすくす」などで周知した。</li> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

2 (3) 4	女性のための相談事業	担当課	人権・男女共同参画課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>女性が日常生活の中で直面する様々な悩みの解消や配偶者等の暴力から女性とその子どもを守るため、女性のための相談窓口を設けます。</p>		<p>女性やその子どものための支援等について、相談体制や関係機関との連携を強化します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>・相談件数 691件 庁内及び他機関連絡調整先件数のうち、こども家庭課 46件</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の特性上、関係機関との連携は不可欠であり、今後もさらに連携を深めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>・相談件数579件 庁内及び他機関連絡調整先件数のうち、こども家庭課44件</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>・相談件数558件（うち、庁内及び他機関連絡調整先件数：こども家庭課28件）</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

2 (4) 1	男女共同参画意識改革事業	担当課	人権・男女共同参画課
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> 男女がともに担う子育てを促進するには、働き方を見直すとともに、男女共同参画社会の実現が必要です。そのために、性別による固定的な役割分担意識の是正や女性の人権に関する情報提供、啓発事業を実施し、社会的機運の醸成や働く場における子育て支援への意識を醸成します。		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> 附属機関委員等の意見を踏まえながら、時代や社会のニーズに合った内容で事業を実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の編集による情報誌「まめ」を発行（2回発行） 年間発行部数24,000部</li> <li>・新成人へ男女共同参画啓発リーフレットを送付（2,527人）</li> <li>・男女共同参画推進登録団体が開催する啓発事業を共催（5件）</li> <li>・デートDV防止講座（大学生対象）を開催。参加者数90人</li> <li>・デートDV防止講座（高校生対象）を開催。参加者数201人</li> <li>・「男女共同参画」啓発展示を実施（1回）</li> <li>・「女性に対する暴力をなくす運動」啓発展示を実施（1回）</li> <li>・ひらつか男女共同参画推進協議会を開催（3回）</li> <li>・平塚市内企業・事業所向けイクボス講演会を開催。参加者数103人</li> <li>・第6回平塚市女性職員活躍推進フォーラムを開催（1回）</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の実績は積んでいるが、事業が直接的にどの程度意識醸成に寄与できているかの成果を図ることが難しい。働く場における意識醸成については、平塚市役所も含めてどれだけ企業が実践できるかということになる。積極的に企業が取り組むような機運を高めるため、企業表彰やインセンティブの付与などの本市の取組みを必要とするが、どんな取組みが可能かについて、庁内他部署との協力と連携体制を築くことが必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の編集による情報誌「まめ」を発行（3回発行） 年間発行部数36,000部</li> <li>・新成人へ男女共同参画啓発リーフレットを送付（2,590人）</li> <li>・男女共同参画推進登録団体が開催する啓発事業を共催（4件）</li> <li>・デートDV防止講座（大学生対象）を開催。参加者数43人</li> <li>・デートDV防止講座（高校生対象）を開催。参加者数217人</li> <li>・「男女共同参画」啓発展示を実施（1回）</li> <li>・「女性に対する暴力をなくす運動」啓発展示を実施（1回）</li> <li>・ひらつか男女共同参画推進協議会を開催（2回）</li> <li>・第5回平塚市女性職員活躍推進フォーラムを開催（1回）</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の編集による情報誌「まめ」を発行（3回発行） 年間発行部数36,000部</li> <li>・新成人へ男女共同参画啓発リーフレットを送付（2,607人）</li> <li>・男女共同参画推進登録団体が開催する啓発事業を共催（4件）</li> <li>・デートDV防止講座（大学生対象）を開催。参加者数138人</li> <li>・デートDV防止講座（高校生対象）を開催。参加者数215人</li> <li>・男女共同参画推進啓発紙芝居の実演（1回）</li> <li>・「男女共同参画週間」啓発展示を実施（1回）</li> <li>・「女性に対する暴力をなくす運動」啓発展示を実施（1回）</li> <li>・ひらつか男女共同参画推進協議会を開催（2回開催）</li> <li>・第4回平塚市女性職員活躍推進フォーラムを開催（1回）</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

2 (5) 1	労働セミナー事業	担当課	産業振興課
---------	----------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
労働諸問題に対する理解と教養を深めるため、勤労者、事業主、一般市民を対象に労働セミナーを開催し、労働問題の自主的解決能力の向上を図るとともに、生活安定向上を目指します。	県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を開催します。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を次のとおり開催しました。(各定員50人・受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年2月3日(水) 職場の安全配慮義務と改正労働安全衛生法 参加者数: 29人</li> <li>・平成28年2月5日(金) 労働契約の基本と改正のポイント① 参加者数: 29人</li> <li>・平成28年2月10日(水) 労働契約の基本と改正のポイント② 参加者数: 30人</li> </ul> <p>いずれも18時30分～20時30分</p>	
	検証結果	B: おおむね成果があがった
	今後の課題	参加者を増やすためには、事業周知を効果的に行うとともに、時節にあったテーマを捉えて事業を進めていくことが必要です。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成26年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を4日間開催した(受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 平成27年2月12日(木)・18日(水)・20日(金)・24日(火)の18時30分～20時30分</li> <li>※全4回の中で、ワークライフバランス、労働時間、休暇・休業等について扱った。</li> <li>・会場 神奈川県平塚合同庁舎別館</li> <li>・参加者数 延べ110人</li> <li>・講師 (株)マーシャル・コンサルティング 代表取締役 上岡 弓見子氏 法政大学講師 山本 圭子氏</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	参加者数が減少していることから、神奈川県と協力し事業周知を効果的に行うとともに、時節にあったテーマを捉えて事業を進めていくことが必要です。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成25年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を開催した(受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 平成26年2月7日(金) 18時30分～20時30分</li> <li>※全4回中2回目。労働時間、休日・休暇等について</li> <li>・会場 神奈川県平塚合同庁舎別館</li> <li>・参加 26人</li> <li>・講師 法政大学講師 山本 圭子氏</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>	

2 (5) 2	就労支援制度の普及・啓発	担当課	産業振興課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
勤労ひらつか(毎月1回、市内の労働組合や企業、市の施設に配付)で支援制度の普及啓発に努めるとともに、厚生労働省や都道府県労働局から送付されるリーフレット、冊子等を掲出し、閲覧に供し啓発に努めます。	ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に関する情報を広く発信します。また、国・県の関係機関等から送付されたリーフレットや冊子等を掲示・配架し、啓発を図ります。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<p>情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計4回掲載しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年6月号 男女雇用機会均等法に関する相談先の周知記事を掲載</li> <li>・平成27年6月号 男女共同参画週間に関する記事を掲載</li> <li>・平成27年8月号 ワーク・ライフ・バランス推進支援に関する記事を掲載</li> <li>・平成27年11月号 女性を対象とした就職応援セミナーに関する記事を掲載</li> </ul> <p>国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めました (掲示・配架場所: 本庁舎・勤労会館・産業振興課等)</p>	<p>検証結果</p> <p>A: 成果があがった</p>
	<p>今後の課題</p>	
	<p>今後の事業展開とその判断理由</p>	<p>① 現状の規模で継続</p>
平成26年度	<p>・原則、月1回発行の情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計2回掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年6月号 男女雇用機会均等月間についての記事を掲載</li> <li>・平成26年8月号 ワーク・ライフ・バランス推進支援についての記事を掲載</li> <li>・随時、労働相談会や相談窓口のお知らせを掲載</li> </ul> <p>・国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた (掲示・配架場所: 市役所本館・勤労会館・産業振興課等)</p>	<p>検証結果</p>
	<p>今後の課題</p>	
	<p>今後の事業展開とその判断理由</p>	<p>① 現状の規模で継続</p>
平成25年度	<p>・原則、月1回発行の情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計2回掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年5月号 ワーク・ライフ・バランス推進支援についての記事を掲載</li> <li>・平成25年6月号 男女雇用機会均等月間についての記事を掲載</li> </ul> <p>・国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた (掲示・配架場所: 本庁舎・勤労会館・産業振興課等)</p>	<p>検証結果</p>
	<p>今後の課題</p>	
	<p>今後の事業展開とその判断理由</p>	<p>① 現状の規模で継続</p>

備考 (その他)

2 (5) 3	就労環境の向上に向けた普及・啓発	担当課	人権・男女共同参画課
---------	------------------	-----	------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
企業や市民に向けて、男女雇用機会均等法等を普及・啓発し、男女が共に能力を発揮できる職場づくりを進めます。	市民ニーズを取入れるため、アンケート等を踏まえて事業を実施します。また、関係課と連携しながら、企業への啓発を実施します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<p>1 再就職応援セミナーの開催（2回） 参加者28人（1回目14人、2回目14人）  2 働く女性のためのキャリア開発講座の開催（1回） 参加者数30人  3 平塚市内企業・事業所向けイクボス講演会 参加者103人</p> <p>※1及び2の事業は無料保育付</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	関係課へ理解を促し、協力関係を得ること。 企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<p>・再就職応援セミナー（再出発へのコミュニケーション力）の開催（1回） 参加者16人  ・働く女性のためのキャリア開発講座（女性のためのタイムマネジメント講座～贅沢な24時間を過ごすコツ～）の開催（1回） 参加者数31人</p> <p>※上記事業は無料保育付</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<p>・再就職応援セミナー（ハローワークとのコミュニケーション“咲かせて！あなたの花を！”）の開催（1回） 参加者11人  ・働く女性のためのキャリア開発講座（女性のためのセルフコーチング～ポジティブな私になれるコツ～）の開催（1回） 参加者数21人  ・女性管理職育成セミナーの開催（県との共催事業）（3回連続講座） 参加者数34人</p> <p>※上記事業は無料保育付</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>	



2 (6) 1	母子・父子相談の充実	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
母子・父子家庭の自立促進のため、就労支援、母子・父子福祉資金の貸付け、母子・父子保護等を含むあらゆる相談に対応します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子相談等の多様な相談に対応した。</li> <li>母子・父子自立支援員1人配置</li> <li>相談件数：477件（新規ケース）</li> <li>相談回数：1,259件</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	相談充実のための母子・父子自立支援員の増員	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子相談等の多様な相談に対応した。</li> <li>母子・父子自立支援員1人配置</li> <li>相談件数：527件（新規ケース）</li> <li>相談回数：1,226件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子相談の多様な相談に対応した。</li> <li>母子自立支援員1人配置</li> <li>相談件数：364件（新規ケース）</li> <li>相談回数：924件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

2 (6) 2	母子・父子自立支援事業	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
母子・父子家庭への支援対策として、自立支援給付金事業や日常生活支援事業を実施します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子・父子自立支援給付金事業を実施します。</li> <li>・母子・父子家庭日常生活支援員を派遣します。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 1件 (13,800円) 高等技能訓練促進費等 4件 (4,328,000円)</li> <li>・母子家庭日常生活支援員の派遣 2件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 国の制度見直しによる拡充	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 2件 (41,752円) 高等技能訓練促進費等 6件 (7,606,000円)</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 2件 (35,133円) 高等技能訓練促進費等 5件 (6,991,000円)</li> <li>・母子家庭日常生活支援員の派遣 1件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

2 (6) 3	母子生活支援施設の充実	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図ります。		入所者に対し、生活・就労の支援、指導を行い、自立の促進を図ります。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<p>入所者への生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図った。 4世帯 12人が退所した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	施設の老朽化に対応していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>・花水台ハイム入所者への生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図った。 入所世帯数 6世帯 入所人員 18人</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>・花水台ハイム入所者への生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図った。 入所世帯数 7世帯 入所人員 20人</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (7) 1	小児医療費の助成	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
小児医療費の助成を行います。 (平成24年4月から) 通院対象年齢…0歳児から小学校6年生まで 入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで		引続き事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	小児医療費の助成を行いました。 通院対象年齢…0歳児から小学校6年生まで 入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで 医療証の発行数(平成28年3月31日現在) 23,463人 助成費及び件数 医療費+手数料      728,600,805円 件数                      359,296件		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	事業の安定的な継続のための医療費の増加抑制策として、他課と連携した健康増進や病気やけがの予防の啓発等が課題である。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 平成28年4月から、通院の助成対象を小学6年生から中学3年生までに対象年齢を拡大します。	
平成 26 年度	医療費+手数料                      773,214,056円 件数                                      374,875件 受給者数                                23,767人		
	検証結果		
	今後の課題	助成対象拡大と共に、システム改修や医療費削減PRなどの必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 中学生の通院費の助成拡大について検討する	
平成 25 年度	医療費+手数料                      742,609,456円 件数                                      375,916件 受給者数                                24,467人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (7) 2	ひとり親家庭等医療費助成事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するために医療費の一部を助成します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行いました。 医療証の発行数 2,276世帯 5,669人 助成費及び件数 医療費+手数料 186,497,801円 件数 70,385件		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	事業の安定的な継続のための医療費の増加抑制策として、他課と連携した健康増進や病気やけがの予防の啓発等が課題である。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	医療費+手数料 190,883,141円 件数 72,344件 受給者数 5,857人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	医療費+手数料 194,871,366円 件数 72,858件 受給者数 5,962人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (7) 3	保育所保育料の軽減	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子どもの数や世帯の所得に応じた保育所保育料の軽減を維持します。		家庭の状況に応じた保育所保育料の軽減を継続します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<p>保育所の保育料については、世帯の所得に応じて21階層に分けて設定している。さらに、同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合には、2人目を半額、3人目以降は無料とし、兄弟姉妹のいる家庭の保育料負担の軽減措置を継続している。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 <small>平成28年度からは、年収360万円未満の世帯を対象に、1人目の子どもの年齢に関係なく2人目は半額、3人目以降は無料とし、さらに、年収約360万円未満相当のひとり親世帯等については、第1子の保育料を半額、第2子以降の保育料を無料とする予定である。</small>	
平成 26 年度	<p>・保育所の保育料については、世帯の所得に応じて、22階層に分けて設定しており、同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合には、2人目を半額、3人目以降は、平成21年度から無料とし、兄弟姉妹のいる家庭のさらなる保育料の軽減措置を継続している。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>・保育所の保育料については、世帯の所得に応じて、22階層に分けて設定しており、同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合には、2人目を半額、3人目以降は、平成21年度から無料とし、兄弟姉妹のいる家庭のさらなる保育料の軽減措置を継続している。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (7) 4	幼稚園就園奨励事業	担当課	教育総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>幼稚園等に就園する園児の保護者の経済的負担を軽減するとともに、幼児教育の振興に役立てるために市民税額に応じて幼稚園保育料等を軽減します。</p>		<p>子ども・子育て支援新制度による利用者負担額が適用されない幼稚園等に就園する園児の保護者の経済的負担を軽減するために市民税額に応じて保育料等を軽減します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<p>私立幼稚園などに就園する園児の保護者2,725名に対して314,284,840円の補助金を交付した。</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	子ども子育て支援新制度の開始により新制度へ移行した園とのバランスが保たれるか。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>③ 縮小して継続          幼児教育の充実を図るため、引き続き国の就園奨励事業に基づき実施する必要がある。ただし、子ども・子育て支援新制度へ移行する園の増加により、対象となる園数が減少する可能性があるため。</p>	
平成26年度	<p>私立幼稚園などに就園する園児の保護者2,875名に対して369,422,980円の補助金を交付した。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<p>私立幼稚園などに就園する園児の保護者2,513名に対して262,919,120円の補助金を交付した。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (7) 5	児童生徒就学援助事業	担当課	教育総務課
---------	------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
経済的な理由により就学が困難な小・中学校に就学する児童、生徒の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。	引続き、経済的な理由により就学が困難な小・中学校に就学する児童、生徒の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助しています。</p> <p>【学用品費】小学生11,420円、中学生22,320円（4月1日認定者）            【通学用品費】2,230円（4月1日認定者）            【新入学用品費】小学生20,470円、中学生23,550円            【校外活動費】（日帰り）小学生1,550円、中学生2,240円（宿泊）小学生3,570円以内、中学生6,010円以内            【修学旅行費・通学費】実費            【体育実技用具費】柔道7,510円以内、剣道51,940円以内            【給食費】学校徴収額            【卒業時諸費用代】8,000円（小学6年生、中学3年生対象）            【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	生活扶助基準の見直しに伴って申請者の生活状況が変わらないにも関わらず認定されないということがないように認定基準の見直しを行うこと。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助しています。</p> <p>【学用品費】小学生11,420円、中学生22,320円（4月1日認定者）            【通学用品費】2,230円（4月1日認定者）            【新入学用品費】小学生20,470円、中学生23,550円            【校外活動費】（日帰り）小学生1,550円、中学生2,240円（宿泊）小学生3,570円以内、中学生6,010円以内            【修学旅行費・通学費】実費            【体育実技用具費】柔道7,510円以内、剣道51,940円以内            【給食費】学校徴収額            【卒業時諸費用代】8,000円（小学6年生、中学3年生対象）            【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助しています。</p> <p>【学用品費】小学生11,100円、中学生21,700円（4月1日認定者）            【通学用品費】2,170円（4月1日認定者）            【新入学用品費】小学生19,900円、中学生22,900円            【校外活動費・修学旅行費・通学費・体育実技用具費】実費            【給食費】学校徴収額            【修学旅行支度金】10,000円（中学校3年生修学旅行参加生徒）            【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>



3 (1) 1	幼児教育指導法の工夫・改善	担当課	教育指導課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
より豊かな幼児教育を実現するために幼稚園の運営や指導法等を研究します。		幼稚園の運営及び指導法の研究のために園長会及び主任・担任研究会を実施し、幼児教育の充実を図ります。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<p>・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

3 (1) 2	幼・保・小・中連携の推進事業	担当課	教育指導課 教育研究所
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
幼・保・小・中の指導の一貫性を図るために連携学習研究会や連携教育講演会を開催します。		・幼・保・小・中の連携学習研究会等を通して指導の在り方や指導上の問題点について研究協議し、相互に理解を深め、連携や交流を推進します。 ・幼・保・小・中連携を推進するために、夏季研究教室の講座として「幼保小中連携教育講演会」を開催します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	・「就学前と小学校の連携」「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、さくら幼稚園と浜岳中学校を会場に開催した。 ・幼保小中連携教育講演会を7月に実施した。 1 「相模原市藤野地区幼保小中連携協議会代表」と「真鶴町教育委員会指導主事」による講演 2 受講者によるグループ討議 3 パネルディスカッション (参加者 51名)		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	・「就学前と小学校の連携」「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、岡崎小学校と大原小学校を会場に開催した。 ・白梅学園大学 無藤 隆 教授を講師に招き、『異校種間の連携と円滑な接続とは』をテーマに、市内保育所・幼稚園・小学校・中学校教職員を対象に教育会館にて幼・保・小・中連携教育講演会を実施した。(参加者59人)		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	・「就学前と小学校の連携」「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、幼稚園と中学校を会場に2回開催した。 ・東京成徳短期大学 和田 信行教授を講師に招き、『幼保小中の接続・その考え方と進め方』をテーマに、市内保育所・幼稚園・小学校・中学校教職員を対象に教育会館にて幼・保・小・中連携教育講演会を実施した。 (参加者50人)		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

3 (1) 3	幼児教育の支援	担当課	教育指導課
---------	---------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<p>保護者の育児不安の解消と幼児の心身の健全な発達のために、幼稚園が幼児教育センター的機能として保護者の交流や教育相談等を実施します。</p>	<p>各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を実施します。また、各幼稚園が、地域の公民館と連携し、家庭教育学級を実施します。</p>

各年度における主な取組み等
---------------

平成 27 年度	<p>・各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。 実施園：5園</p> <p>・各幼稚園が地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成 26 年度	<p>・各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。実施園：5園</p> <p>・各幼稚園が、地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成 25 年度	<p>・各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。</p> <p>・各幼稚園が、地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

3 (1) 4	生きる力を育む学校づくり推進事業	担当課	教育指導課 学校給食課
---------	------------------	-----	----------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<p>生きる力を育む教育を展開するために、ふれあい教育、総合的な学習の時間・芸術鑑賞教室・食に関する指導等により特色ある学校づくりを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの「生きる力」を育むために学校ごとに創意工夫をこらした特色ある教育活動を推進します。</li> <li>全小・中学校において作成された食に関する指導の年間計画に基づいて、給食時間、教科、委員会活動等で食に関する指導を実施します。</li> </ul>

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい教育を推進した。</li> <li>「総合的な学習の時間」を推進した。</li> <li>芸術鑑賞を推進した。</li> <li>小学校の校外学習を推進した。</li> <li>中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。</li> </ul> <p>実施校(園)：小中学校43校・幼稚園5園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食育担当者会議を1回開催</li> <li>平成27年度の食に関する指導回数は、小学校1522回、中学校314回</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	<p>県費栄養士配置において、正規職員が欠員となったところは、すべて臨時職員での対応となり、県費栄養士配置数減少に対し、市の予算措置(人員配置)がされない予定。県への臨時職員教育を要望するとともに、市としても支援する必要がある。</p>
	今後の事業展開とその判断理由	<p>③ 縮小して継続</p> <p>予算が大幅に削減されたため。</p>

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい教育を推進した。</li> <li>「総合的な学習の時間」を推進した。</li> <li>芸術鑑賞を推進した。</li> <li>小学校の校外学習を推進した。</li> <li>中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。</li> </ul> <p>実施校(園)：小中43校・幼稚園5園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食育担当者会議を開催。</li> <li>栄養教諭による食教育ネットワーク体制の充実を図るとともに、小中学校において食に関する指導の年間計画の作成できる体制づくりへの支援を行った。また、さらなる食教育充実に向け、学校食教育担当者と栄養士の連携強化を図った。現在、授業および給食時間での食に関する指導件数は、年間指導計画に沿って実施されているが、県費職員の臨時栄養士配置校では、業務運営が安定せず食に関する指導が滞っている様子が見られた。教育担当の栄養教諭・正規学校栄養職員による臨時栄養士指導を実施している。</li> </ul> <p>平成26年度指導件数732件</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい教育を推進した。</li> <li>「総合的な学習の時間」を推進した。</li> <li>芸術鑑賞を推進した。</li> <li>小学校の校外学習を推進した。</li> <li>中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>食育担当者会議を開催。</li> <li>栄養教諭による食教育ネットワーク体制の充実を図るとともに、小中学校において食に関する指導の年間計画の作成できる体制づくりへの支援を行った。現在、授業および給食時間での食に関する指導件数は、690件で、昨年度に比べて267件減となっている。理由としては、学校給食の栄養士に臨時職員が多かったことで、給食時間の指導件数が減っていることが挙げられる。教科と連携した食育献立の取り入れについては、充実を図った。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	<p>各学校が主体的に、生きる力を育む教育活動に取り組むことができるように、予算措置を図る必要がある。</p>
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

**備考 (その他)**

--	--

3 (1) 5	外国人英語指導者の学校訪問事業	担当課	教育指導課
---------	-----------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<p>幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ心を養うために外国人英語指導者が幼稚園、小・中学校を訪問します。</p>	<p>子どもたちの英語に対する興味・関心をさらに高め、英語や外国の生活・文化に親しむ心を養うために外国人英語指導者の増員を目指します。</p>

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<p>・外国人英語指導者9人が小学校・中学校・幼稚園へ訪問した。 実施校(園)：小中学校43校・幼稚園5園</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<p>・外国人英語指導者9人が小学校・中学校・幼稚園へ訪問した。 実施校(園)：小中43校・幼稚園5園</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<p>・外国人英語指導者9人が小学校・中学校・幼稚園へ訪問した。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>

3 (1) 6	人権教育の推進	担当課	教育指導課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
人権教育を推進するため教職員の研修を充実します。		人権を尊重した学校教育を確立するために人権教育担当者会を開催し、学校教育における人権教育の具体的な在り方を研究します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育担当者会を3回開催した。</li> <li>・人権教育実践集を作成し、4月に小中学校43校へ配付した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育担当者会を3回開催した。</li> <li>・人権教育実践集を作成し、4月に各学校へ配付した。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育担当者会を、4回開催した。</li> <li>・人権教育実践集を作成し、4月に各学校へ配付した。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

3 (1) 7	日本語指導協力者派遣事業	担当課	教育指導課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
日本語の指導が必要な児童・生徒に対して、学校における日本語指導、母国語指導、生活適応指導等を支援するため要請に応じて、日本語指導協力者を小・中学校に派遣します。	学校の要請に応じて適宜日本語指導協力者を派遣します。また、国際教室等連絡協議会を開催し、日本語指導の内容や方法について情報交換等を行います。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教室等連絡協議会を3回開催した。</li> <li>・小中学校43校中30校に、日本語指導協力者20人を派遣した。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教室等連絡協議会を3回開催した。</li> <li>・市内43校中28校に、日本語指導協力者19人を派遣した。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教室等連絡協議会を3回開催した。</li> <li>・市内43校中27校に、日本語指導協力者19人を派遣した。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	予算規模は昨年を維持しているが、支援が必要な児童・生徒数が急増したため、年度当初の計画より派遣回数を減らしている。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>
平塚市立小学校長会に委託している。

3 (1) 8	サポートチームシステム推進事業	担当課	教育指導課
---------	-----------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
小・中学生の問題行動への対策を話し合い、地域や関係機関と連携し、具体的な指導・支援を行います。	市サポート連絡会を開催するとともに、中学校区サポート委員会を各中学校区で実施します。また、個別サポートチームを必要に応じて編成し、児童・生徒への効果的な指導、支援を行います。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市サポート連絡会を3回開催した。</li> <li>中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。</li> <li>個別サポートチームを必要に応じ編成し、支援した。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市サポート連絡会を3回開催した。</li> <li>中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。</li> <li>個別サポートチームを必要に応じ編成し、支援した。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市サポート連絡会を、3回開催した。</li> <li>中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。</li> <li>個別サポートチームを必要に応じ編成し、支援した。</li> <li>昨年度の課題をふまえ、こども家庭課及び子ども教育相談センター職員に中学校区サポート委員会への出席を依頼し、家庭との連携について協議を行った。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)



3 (1) 9	中学校部活動指導者派遣事業	担当課	教育指導課
---------	---------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
中学校における部活動育成及び活性化のため、各学校の要請に応じ、専門的資質を有する部活動指導者を顧問の指導協力者として派遣します。	中学校の要請に応じ、専門的資質を有する部活動指導者を顧問の指導協力者として派遣します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者のべ121人を派遣した。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者のべ127人を派遣した。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者のべ122人を派遣した。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

3 (1) 10	学校支援ボランティアの活用	担当課	教育指導課
----------	---------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
学校の教育活動の充実と開かれた学校づくりのために学校支援ボランティア等地域の人々の教育力を活用します。	各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための必要な支援を行います。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<p>・各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための支援を行った。</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<p>・各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための支援を行った。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<p>・各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための支援を行った。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>

3 (1) 11	教材・教具等の充実	担当課	教育総務課
----------	-----------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
学習環境の向上のため、教材・教具、学校図書等を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科教材の充実のために各小・中学校に予算を配当する他、理科教育設備整備費補助金を活用し、理科教育設備基準に対する整備率を向上させます。</li> <li>学校図書館図書の充実のために各小・中学校に予算を配当し、学校図書館図書標準に基づき蔵書数を増やします。</li> </ul>

### 各年度における主な取組み等

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均34万8千円、中学校1校あたり平均42万3千円を学校図書館図書購入費用として各学校に配当しました。</li> <li>理科教育等教材整備基準の整備率を充足するため、小学校1校あたり平均1万円、中学校1校あたり平均17万3千円を理科教材購入費用として各学校に配当しました。</li> <li>文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約42万円、中学校約64万円分の教材を購入しました。</li> </ul>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	該当する予算が縮小された場合、当初の計画どおりの進捗とならないことが懸念されます。また、古い図書の廃棄が進むと、計画通りに蔵書率が向上しないことも想定される。
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 限られた財源で様々な事業を行わなければならない中で、本事業の拡大、現状維持が難しくなっているため。
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均46万6千円、中学校1校あたり平均53万7千円を学校図書館図書購入費用として各学校に配当しました。</li> <li>理科教育等教育整備基準の整備率を充足するため、小学校1校あたり平均3万円、中学校1校あたり平均17万2千円を各学校に配当しました。</li> <li>文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約45万円、中学校約211万円分（うち補正予算分84万円）の教材を購入しました。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	該当する予算が縮小された場合、当初の計画どおりの進捗とならないことが懸念される。また、古い図書の廃棄が進むと、計画通りに蔵書率が向上しないことも想定される。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均33万2千円、中学校1校あたり平均41万2千円を学校図書館図書購入費用として各学校に配当しました。</li> <li>理科教育等教育整備基準の整備率を充足するため、小学校1校あたり平均9万1千円、中学校1校あたり平均24万1千円を各学校に配当しました。</li> <li>文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約190万円（うち補正予算分135万円）、中学校約878万円分（うち補正予算分823万円）の教材を購入しました。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	該当する予算が縮小された場合、当初の計画どおりの進捗とならないことが懸念される
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 該当する予算が平成25年度比で増額となったため

備考（その他）

3 (2) 1	教育相談体制の充実事業	担当課	子ども教育相談センター
---------	-------------	-----	-------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
児童・生徒の様々な問題を解決するために相談スタッフを充実するとともに、訪問相談事業、各種研修会・研究会を実施します。	研修会等の内容や講師の選定に努め、より良い支援ができるように事業の内容を充実させます。

### 各年度における主な取組み等

平成 27 年度	専任の相談員による不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施 7ケース、 訪問回数延べ 274回	
	スーパーバイザーによる「教育相談所内研修会」 11回開催	参加人数 延べ 163人
	学校教育相談研修会 5回開催	参加人数延べ 312人
	学校訪問事例研究会 5回開催	参加人数延べ 117人
	教育相談コーディネーター担当者会 4回開催	参加人数延べ 157人
	訪問相談学生派遣 18日派遣	
	機関紙「そうだん」の発行	

検証結果	A：成果があがった
今後の課題	児童・生徒の問題解決に向けて、活用できる資源の収集や関係機関との連携がより重要となっています。支援のあり方を実践的に学び、よりよい支援につながるように研修会の実施の仕方に工夫が必要です。
今後の事業展開とその判断理由	⑦ 他事業と統合 次期総合計画策定の中で、研修会の実施の仕方を工夫していく必要があると判断したため、その部分を研修・研究推進事業とし、訪問相談学生派遣に関しては、教育相談事業の中にボランティアとして位置付ける。

平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任の相談員による不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施・・・6ケース、訪問回数延べ206回</li> <li>・スーパーバイザーによる「教育相談所内研修会」の実施・・・8回</li> <li>・学校訪問事例研究会の開催・・・7回実施、参加者延べ154人</li> <li>・学校教育相談研修会の開催・・・4回実施、参加者延べ289人</li> <li>・教育相談コーディネーター担当者会の開催・・・4回実施、参加者延べ124人（3回分の人数、あとの1回は、学校教育相談研修会いずれかへの参加）</li> <li>・機関紙「そうだん」の発行予定</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	児童・生徒の問題解決に向けて、活用できる資源の収集や関係機関との連携が必要となってきますので、内容の工夫や課題に適した講師の選定に努めると共に研修会、研究会の実施の仕方にも工夫が必要となってきています。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任の相談員による不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施・・・8ケース、訪問回数延べ371回</li> <li>・スーパーバイザーによる「教育相談所内研修会」の実施・・・7回実施、延べ130人</li> <li>・学校訪問事例研究会の開催・・・7回実施、参加者延べ127人</li> <li>・学校教育相談研修会の開催・・・4回実施、参加者延べ224人</li> <li>・教育相談コーディネーター担当者会の開催・・・4回実施、参加者延べ160人</li> <li>・機関紙「そうだん」の発行</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	
本事業は平成28年度より研究・研修の部分を研修・研究推進事業として独立させ、独立しなかった部分を「教育相談事業」として事業を展開する。	

3 (2) 2	スクールカウンセラー派遣事業	担当課	子ども教育相談センター
<b>事業の概要 (計画掲載内容)</b> 児童・生徒の様々な問題を解決するために本人や保護者のカウンセリングと教職員を支援するスクールカウンセラーを小・中学校に派遣します。		<b>今後の取組み (計画掲載内容)</b> スクールカウンセラーを年間15人派遣し、全小・中学校に配置していきます。その後は勤務日の増加を目指します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容 教室巡回2,446回、外部関係書・機関との情報交換157回、教職員向け研修会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席91回、校内支援会議への参加160回、家庭訪問40回、その他20回 計2,918回 来室相談延べ人数 小学生1,838人、中学生858人、小学生保護者1,012人、中学生保護者299人、小学校教員2,073人、中学校教員732人、計6,812人 電話相談延べ人数 小学生36人、中学生60人、小学生保護者202人、中学生保護者114人、小学校教員4人、中学校教員4人計420人 来室相談内容延べ人数 いじめ81人、長期欠席1,779人、暴力行為90人、学習進路545人、親子関係523人、友人異性860人、自己性格1,490人、身体健康272人、その他1,172人 電話相談内容延べ人数 いじめ10人、長期欠席144人、暴力行為2人、学習進路30人、親子関係19人、友人異性48人、自己性格95人。身体健康22人、その他50人		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができません。2人の増員とその後は、勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となります。	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。		
平成26年度	・ 県事業のスクールカウンセラーと合わせて、小中学校全校に配置し、児童・生徒、保護者、教職員への支援を行っている。 ・ 市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校、中学校11校に週1回配置。県スクールカウンセラーが中学校15校全校に週1回配置されているので、中学校11校については、県と市のスクールカウンセラーによる週2回の配置ができた。 ・ 平成26年度の来所相談・電話相談の延べ件数は8,653件です。		
	検証結果		
	今後の課題	中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置が出来ると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校週2回の配置が出来ます。2人の増員と現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となります。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成25年度	・ 県事業のスクールカウンセラーと合わせて、小中学校全校に配置し、児童・生徒、保護者、教職員への支援を行っている。 ・ 市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校、中学校11校に週1回配置。県スクールカウンセラーが中学校15校全校に週1回配置されているので、中学校11校については、県と市のスクールカウンセラーによる週2回の配置ができた。 ・ 平成25年度の来所相談・電話相談の延べ件数は7,271件です。		
	検証結果		
	今後の課題		
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
<b>備考 (その他)</b>			
いじめ、不登校、発達の課題等、学校現場が抱える教育課題に対し、臨床心理の側面から様々な活動を行い、児童、生徒や保護者、教職員を支援しています。こうした活動は、子どもたちの安心安全な学校生活につながります。しかし、週1、2回の配置では、不十分であるとの声が聴かれますので、スクールカウンセラーの増員と勤務日の増加を図る必要がある。			

4 (1) 1	交通安全啓発推進事業		担当課	交通政策課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）		
幼稚園、保育所、学校等において交通安全教室を開催し、交通事故防止と交通安全の啓発を行います。		交通ルールやマナーの周知を継続的に実施し、交通事故防止と交通安全意識の向上を図ります。		
各年度における主な取組み等				
平成27年度	交通安全教室実施回数 222回			
	検証結果	A：成果があがった		
	今後の課題	自治会等からの急な依頼があった際、交通安全教育指導員の日程が埋まってしまっている場合があるので、交通政策課職員で代行できるようにしていく。		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成26年度	交通安全教室実施回数 203回			
	検証結果			
	今後の課題	教室実施場所の協力		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成25年度	交通安全教室実施回数 215回			
	検証結果			
	今後の課題	教室実施場所の協力		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
備考（その他）				

4 (1) 2	歩道設置事業	担当課	道路整備課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
歩行者の安全を確保するために主要幹線道路に歩道を新設します。		幹道10号(城所線)や入野5号線等に、歩道等を設置し歩行者の安全を確保します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	整備延長 114m 城所線 48m 北金目真田線 66m		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	幹線道路の歩道整備には、相当な費用を要するため、計画的に事業を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	整備延長 194m 城所線 71m 入野排水路 19m 南原河内線 39m 北金目真田線 65m		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	整備延長 24m 城所線 24m		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 コミュニティ道路整備事業との統合により、歩道設置事業としての事業増となるため	
備考 (その他)			

4 (1) 3	通学路合同点検事業	担当課	教育総務課
---------	-----------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
通学路の安全を確保するため、各学校からあげられた通学路の危険箇所を学校、保護者、自治会等地域住民、警察、道路管理者等で通学路の合同点検を実施し、安全対策案の検討・対策の実施を進めます。	合同点検を実施し、安全対策案の検討・対策の実施を進めます。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	通学路合同点検を5日開催しました。 通学路交通安全推進会議を2回開催しました。  合同点検実施学校数：22校 合同点検実施箇所数：53箇所	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	PDCAサイクルとして繰り返し実施し、事業の改善・充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成 26 年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

平成 25 年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

<b>備考（その他）</b>



4 (2) 1	地域安全運動の推進	担当課	危機管理課
---------	-----------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが犯罪に巻き込まれないように市民の防犯意識の高揚を図るため、関係団体が連携した地域安全運動や地域安全運動推進大会、研修会等を実施します。</li> <li>地域の防犯活動を支援します。</li> </ul>	警察機関や防犯協会と連携し、事業を実施します。

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域安全運動推進大会の実施 (188名参加)</li> <li>安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日 (防犯の日) 等に地域安全運動等を実施</li> <li>防犯啓発看板やのぼり旗、防犯啓発グッズの配布を随時実施</li> <li>防犯花植え活動の実施 (チューリップの球根を14支部に配布)、(富士見地区をモデル地区として支部内公園や小学校にて花植え活動の実施)</li> </ul>	
	検証結果	A: 成果があがった
	今後の課題	・ 防犯花植え活動の拡大
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域安全運動推進大会の実施 (186名参加)。</li> <li>安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日 (防犯の日) 等に地域安全運動等を実施。</li> <li>防犯啓発看板を防犯協会26支部に必要枚数分を配付。</li> <li>防犯啓発グッズの配布や貸し出しを随時実施。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域安全運動推進大会の実施 (193名参加)。</li> <li>安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日 (防犯の日) 等に地域安全運動等を実施。</li> <li>防犯啓発看板を防犯協会26支部に5枚ずつ計130枚を配付。</li> <li>防犯啓発グッズの配布や貸し出しを随時実施。</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>	

4 (2) 2	地域安全施設整備事業	担当課	危機管理課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが犯罪に巻き込まれないように防犯街路灯を設置します。</li> <li>自治会等の団体が管理する防犯街路灯の設置や維持管理を支援します。</li> </ul>		自治会等の要望や意見を取入れながら、事業を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯街路灯の新設62灯</li> <li>防犯街路灯維持管理補助金 (147団体計8, 721灯に補助)</li> <li>防犯街路灯設置補助金 (50団体238灯へ補助)</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会が管理をする防犯街路灯のLED化</li> <li>高騰する電気料金の抑制と防犯街路灯の整備・維持管理の両立</li> </ul>	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 自治会から移管を受けた防犯街路灯の早期LED化を進める予定であるため。	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯街路灯を維持管理し、21灯を新設。(1灯撤去)</li> <li>自治会が管理する防犯街路灯に対し、維持管理補助金(電気料金相当分)を交付。</li> <li>自治会が新設、交換した防犯街路灯359灯に対して設置補助金を交付決定。</li> <li>市が管理する防犯街路灯6647灯については全てLED化が完了した。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯街路灯を維持管理し、37灯を新設。</li> <li>自治会が管理する防犯街路灯に対し、維持管理補助金(電気料相当分)を交付。</li> <li>自治会が新設、交換等した防犯街路灯に対し、設置補助金を交付。また、LED防犯灯設置等194灯について、補助金交付決定した。</li> <li>防犯街路灯のLED化を実施し、既存の防犯街路灯47灯についてLED防犯街路灯へ交換</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 電気料金やCO2削減のため、LED灯への交換を加速化させることが必要不可欠であり、26年度に市管理防犯街路灯の一括LED化を行う予定	
備考 (その他)			

4 (2) 3	学校（園）の安全対策事業	担当課	教育総務課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
子どもの登下校時の安心・安全を確保するために自転車や公用車による巡回パトロールを行います。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	・新1年生下校時に実施（4月） ・秋季休業開始時に実施（10月） ・その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	新1年生下校時に実施（4月） 秋季休業開始時に実施（10月） その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	新1年生下校時に実施（4月） 秋季休業開始時に実施（10月） その他事件発生時等に、随時学区内の巡回を実施		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

4 (2) 4	通学路安全対策事業	担当課	教育総務課
---------	-----------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
児童・生徒の安心・安全な通学を確保するために、地域との連携により、あいさつ運動の推進や通学路の環境を整備します。	学校との連携により、児童・生徒が安全で安心して通学できる環境づくりを進める地域団体に対し、通学路安全対策事業の経費を補助します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める9の団体に対して、横断旗、パトロールベストなどの補助として総額388,184円を交付した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	助成予定数に対し申請件数が下回る傾向が見受けられ、幅広く制度を周知する必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 申請件数が助成予定数を下回る傾向が続く場合は、制度の見直しを検討する必要がある
平成 26 年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める9の団体に対して、蛍光ベストや腕章などの補助として総額394,379円を交付した。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める10の団体に対して、横断旗や自転車用ヘルメットなどの補助として総額398,715円を交付決定した。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>

4 (2) 5	子どもの安全対策の推進	担当課	社会教育課
---------	-------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
市内の各中学校区の地域教育ネットワーク協議会が行う「こどもサポート看板」の設置・管理を支援し、子どもの安全確保に努めます。	市内の公共施設、住宅、店舗等への「こどもサポート看板」の設置に協力いただける件数を増やします。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	平成27年度末の看板設置枚数2,079枚。	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	保護者、地域諸団体への周知
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	平成26年度末こどもサポート看板設置枚数2,058枚。	
	検証結果	
	今後の課題	効果的なPR方法についての継続的な検討を要する
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	平成25年度末こどもサポート看板設置枚数2,046枚。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>	

4 (3) 1	安全対策の推進	担当課	みどり公園・水辺課 総合公園課 青少年課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
公園等の点検・整備を行い、子どものあそび場の安全確保に努めます。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・直営による公園施設の点検において、ベンチや一般的な遊具等の共通項目だけでなく、公園特性に応じた附帯的な施設についても、細やかな部分まで点検を行い、安全管理を徹底します。</li> <li>・安全にあそぶことができる広場にするために定期的な巡回点検を行い、修繕等を実施します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみ点検）実施。 ・点検時、老朽化した遊具の確認、撤去を実施。</li> <li>・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。 ・要望、苦情に基づいて市内公園の巡回を実施。</li> <li>・公園内の草刈、樹木剪定を実施。 ・公園遊具の事故件数0件。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合公園において、毎日の日常点検および専門業者による遊具の保守点検を実施。</li> <li>・点検・指摘等により発見された遊具の修繕の実施。</li> <li>・子どもの見守り協力についての園内放送の実施。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内15箇所の青少年広場、ちびっ子広場の管理。 横内児童遊園の草刈、寺分ちびっ子広場のフェンス修繕、今里ちびっ子広場の樹木剪定、松が丘青少年広場のフェンス修繕、古真土ちびっ子広場の看板・ブランコ・フェンス修繕、すのこ橋ちびっ子広場のフェンス修繕</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	安全第一が求められるため、経年劣化してしまった遊具の修繕か撤去等の判断基準が必要とされており課題となっています。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみの点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。</li> <li>・要望、苦情に基づいて市内公園の巡回を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。</li> <li>・公園遊具の事故件数0件。 ・市内15か所の青少年広場の巡回、遊具点検を実施</li> <li>・琵琶ちびっ子広場を返還（5月） ・今里西ちびっ子広場カラスの巣撤去</li> <li>・横内児童遊園の草刈を実施 ・鷹落ちびっ子広場の遊具修繕を実施</li> <li>・すのこ橋ちびっ子広場の遊具修繕を実施 ・上山下なかよし広場の遊具修繕を実施</li> <li>・松が丘青少年広場の樹木伐採を実施 ・古真土ちびっ子広場のフェンス修繕を実施</li> <li>・松が丘青少年広場の防球ネットの修繕を実施</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみの点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。</li> <li>・要望、苦情に基づいて市内公園の巡回を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。</li> <li>・公園遊具の事故件数0件。 ・市内16か所の青少年広場の巡回、遊具点検を実施</li> <li>・横内児童遊園の草刈を実施 ・中里ちびっ子広場の遊具の撤去、原状回復、除草を実施</li> <li>・古真土ちびっ子広場のフェンス修繕を実施 ・松が丘青少年広場の防球ネットの修繕を実施</li> <li>・出縄青少年広場の樹木伐採を実施 ・寺分ちびっ子広場の雲梯修繕を実施</li> <li>・松が丘青少年広場の樹木伐採を実施 ・西海地子ども遊園地のブランコ修繕を実施</li> <li>・上山下なかよし広場の鉄棒撤去を実施</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

4 (3) 2	公園整備事業	担当課	みどり公園・水辺課
---------	--------	-----	-----------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
公園等を計画的に整備するとともに、整備の際は子どもの発育段階に応じた遊具の設置、配置等を考慮し、あそび場の確保を図ります。	公園長寿命化計画を策定し、子どもの発育段階に対応した遊具を計画的に整備・補修します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・須賀公園の少年用野球グラウンドの拡幅整備（H28年度継続工事）</li> <li>・規模および施設数を基に公園長寿命化計画策定公園を選定。</li> <li>・公園長寿命化計画策定費用の算出。</li> <li>・公園長寿命化計画策定後の維持管理費の縮減額の算出。</li> </ul>	
	検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった
	今後の課題	計画策定を予定している公園内の全施設について定期的な予防保全型の維持管理を行っていくためには、膨大な維持管理費が必要となるため、今後対象とする施設の再検討を要する。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 計画策定の対象とする施設の再検討を行う必要性はあるが、遊具については利用者の安全性確保が不可欠であるため現状の規模で継続する必要がある。
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川井公園、二十四軒町公園の砂場再整備（砂場柵の設置）</li> <li>・須賀公園の少年用野球グラウンドの拡幅整備（H27年度継続工事）</li> <li>・有明公園、すべり台を老朽化により更新工事</li> <li>・総合公園子供広場遊具更新工事（総合公園課依頼案件）</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就学児用遊具設置（9公園に15基設置）</li> <li>・平塚市土屋霊園の再整備</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>

4 (4) 1	歩道のバリアフリー化事業	担当課	道路整備課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
歩行者の安全性向上と障がい者や高齢者等に優しいまちづくりを進めるために歩道の段差解消等の改良をします。	平塚市バリアフリー基本構想に位置づけられた生活関連経路である幹道34号（南町通東浅間線）等の歩道の段差解消等の改良をします。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	段差解消 40ヶ所	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	段差解消 17ヶ所	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	段差解消 124ヶ所	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）



4 (4) 2	ノンステップバス推進事業	担当課	交通政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
高齢者や障がい者を始めとした全ての市民のバスによる移動の利便性や安全性の向上を図るために、市内を運行するバス事業者に対してノンステップバスの導入を支援します。		ノンステップバス導入率の向上に向け、バス事業者と連携を図りながら、導入を支援します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	平成27年度のノンステップバス導入支援 (12台) に対し、補助金を交付した。(累計54台)		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	本事業の継続とともに、広域的な視点による導入率向上のため、神奈川県に対して補助制度の創設を要望していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	ノンステップバスの導入支援 (11台) に対し補助金を交付した。(累計42台)		
	検証結果		
	今後の課題	関東管内では、神奈川県のみ本事業に対する補助制度がなく、市町村負担が高いことを課題と認識している。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	バス事業者のノンステップバス導入 (6台) に対し補助金を交付した。(累計31台)		
	検証結果		
	今後の課題	関東管内では、神奈川県のみ本事業に対する補助制度がなく、市町村負担が高いことを課題と認識している。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 国の目標である、平成32年度末までにノンステップバス導入率70%達成に向け、バス事業者と合意が得られたため	
備考 (その他)			

4 (5) 1	環境実態調査	担当課	青少年課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
県が主催する青少年を取巻く環境実態調査に協力し現地調査をします。		現状通りの調査を継続して行う予定となっています。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<p>市内にあるカラオケボックス店、インターネットカフェ、まんが喫茶店を調査 平成23年度から調査を効率的、効果的に行うため、従来あった「社会環境実態調査」と「有害図書類区分陳列等調査」を統合して、「社会環境実態調査」として実施している。</p> <p>《調査内容》 カラオケボックス：店舗名、所在地、部屋数、深夜営業の状況、条例に基づく措置、自主規制等店舗の状況 インターネットカフェ・まんが喫茶：店舗名、所在地、営業区分、客席の状況、深夜営業の状況、条例に基づく措置、自主規制等店舗の状況 書店：店舗名、所在地、営業区分、有害図書類販売物の有無、包装方法、区分陳列方法、サンプルディスプレイの状況等</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<p>市内にあるカラオケボックス店、インターネットカフェ・まんが喫茶店、書店を調査。 平成23年度から調査を効率的、効果的に行うため、従来あった「社会環境実態調査」と「有害図書類区分陳列等調査」を統合して、「社会環境実態調査」として実施。</p> <p>《調査内容》 カラオケボックス：店舗名・所在地・部屋数・深夜営業の状況・条例に基づく措置・自主規制等店舗の状況 インターネットカフェ・まんが喫茶：店舗名・所在地・営業区分・客席の状況・深夜営業の状況・条例に基づく措置・自主規制等店舗の状況 書店：店舗名・所在地・営業区分・有害図書類販売物の有無、包装方法、区分陳列方法、サンプルディスプレイの状況等</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<p>市内にあるカラオケボックス店、インターネットカフェ・まんが喫茶店を調査。 平成23年度から調査を効率的、効果的に行うため、従来あった「社会環境実態調査」と「有害図書類区分陳列等調査」を統合して、「社会環境実態調査」として実施。</p> <p>《調査内容》 カラオケボックス：店舗名・所在地・部屋数・深夜営業の状況・条例に基づく措置・自主規制等店舗の状況 インターネットカフェ・まんが喫茶：店舗名・所在地・営業区分・客席の状況・深夜営業の状況・条例に基づく措置・自主規制等店舗の状況 書店：店舗名・所在地・営業区分・有害図書類販売物の有無、包装方法、区分陳列方法、サンプルディスプレイの状況等</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (5) 2	違反屋外広告物除去事業	担当課	まちづくり政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>道路における違反屋外広告物 (風俗看板等) の掲示により、青少年の育成上に悪影響を与えることになるため、この問題を未然に防止することを目的とします。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回の除却キャンペーンの開催を継続して行います。</li> <li>・職員による巡回、地域のボランティアの協力等により除却活動を継続していきます。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外広告物適正化旬間において、国道、県道、市幹道にて違反屋外広告物の除却活動を実施 (実施回数：2回、参加者：職員4人、除却枚数：110枚)。</li> <li>・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催 (実施回数：1回、参加者：ボランティア31人、事業者3人、警察署員：2人、職員28人、除却枚数：151枚)。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	新たな除却協力員の確保。活動回数の拡充。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外広告物適正化旬間において、国道、県道、市幹道にて違反屋外広告物の除却活動を実施 (実施回数：6回、参加者：職員4人、除却枚数：239枚)。</li> <li>・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催 (実施回数：1回、参加者：ボランティア31人、事業者3人、警察署員：2人、職員27人、除却枚数：176枚)。</li> <li>・費用効果等を鑑み、撤去業務の委託を廃止。</li> <li>・平成27年3月に国道、県道、市幹道にて違反屋外広告物の除却活動を実施 (実施回数：5回、参加者：職員4人、除却枚数：205枚)。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	違反屋外広告物の掲出枚数が減少していることから、事業内容の見直し (活動範囲の見直し、ボランティアの活用等) が必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外広告物適正化旬間において、違反屋外広告物の除却活動を実施 (実施回数：1回、参加者：職員3人、除却枚数：15枚)。</li> <li>・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催 (実施回数：1回、参加者：25人、ボランティア：38人、事業者3人、除却枚数：326枚)。</li> <li>・国道、県道、市幹道 (全86km) において、違反屋外広告物の撤去業務を委託。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	違反屋外広告物の掲出枚数が減少していることから、事業内容の見直し (委託事業の割合等) が必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (1) ①1	妊婦健康診査	担当課	健康課	
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）		
<p>順調な妊娠経過を経て、母子ともに健全な出産を迎えることができるように妊婦健康診査の受診を促します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な受診し、医師や助産師等のアドバイスを受けて、自分自身で健康管理に取り組むことができるよう受診勧奨を行います。</li> <li>受診状況〔母体の疾患、健康状態（血圧、血糖値、尿たんぱく等）、胎児の発育状況等〕の確認を行い、実態把握に努めます。</li> </ul>		
<b>各年度における主な取組み等</b>				
平成27年度	<p>・母子健康手帳交付時に厚生労働省が作成している「妊婦健診を受けましょう」「母子感染を知っていますか？」リーフレットを配布している。 妊婦健康診査第1回目受診率 96.5%</p> <p>・未受診、健診の回数が極端に少ない、初診2週以降等で周産期から行政と連携を取る必要があると判断した場合、医療機関から連絡がある。また、母子健康手帳交付が2週以降、経済的基盤が不安定で医療機関と連携が必要と判断した場合、行政側から医療機関に連絡をしている。行政と医療機関で連携が図れている。</p>			
	検証結果	A：成果があがった		
	今後の課題			
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続		
		妊婦の経済的負担の軽減及び定期的な受診を促す目的で、妊婦健康診査費用の公費助成額を増額します。		
平成26年度	事業内容に組み替えがありました。			
	検証結果			
	今後の課題			
平成25年度	今後の事業展開とその判断理由	事業内容に組み替えがありました。		
		検証結果		
		今後の課題		
<b>備考（その他）</b>				

5 (1) ①2	妊産婦の相談の充実	担当課	健康課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
妊娠早期から産後までの心身の変化や不安等の相談に対応できるよう体制を整備します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳交付状況の確認を行います。</li> <li>・母子健康手帳交付時の保健指導体制を整備します。</li> <li>・妊娠時期に合わせた健康管理に必要な情報提供と相談体制を整備します。</li> <li>・ハイリスク者に対する関係機関との連携強化を行います。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各所における母子健康手帳の発行状況について確認を実施。 平成27年度 妊娠11週以下での届出率 92.1%</li> <li>・母子健康手帳発行時の保健指導体制整備のために、妊娠届出書の見直しを実施。</li> </ul>		
検証結果	B：おおむね成果があがった		
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 平成28年度より妊婦の身体的・精神的・社会的状況の把握を行うため、妊娠届出時にアンケートを実施します。		
平成 26 年度	事業内容に組み替えがありました。		
検証結果			
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由			
平成 25 年度	事業内容に組み替えがありました。		
検証結果			
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由			
<b>備考（その他）</b>			

5 (1) ①3	妊産婦への教育の充実	担当課	健康課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>順調な妊娠経過を経て、母子ともに健全な出産を迎えることができるように母自身の将来の生活習慣病予防に向けて、妊産婦への教育を行います。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中からの健康管理の必要性及び生活習慣病につながるリスク対策（合併症予防、適正体重管理、喫煙・飲酒の有無等）の教育を行います。</li> <li>・将来の生活習慣病の発症予防のための教育を行います。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳交付 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布している。</li> <li>・乳児全戸訪問 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布し、母や家族の喫煙状況について聞き取り調査をしている。また、飲酒状況についても聞き取り調査をしている。 喫煙状況：母の喫煙率 6.0%、同居者の喫煙率 35.8%</li> <li>・母親父親教室 妊娠経過を良好に保つために必要なことについて情報提供をしている。また、飲酒や喫煙が妊娠経過に及ぼす影響についても併せて情報提供している。</li> <li>・父親の育児参加の支援 母子健康手帳の交付時に、父子手帳の交付をしている。</li> <li>・祖父母教室 祖父母教室において、妊婦が妊娠中から生活習慣病予防を視野に入れた健康管理をしていく必要について、講義の内容を見直し実施した。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	データ収集とアンケートにより現状の分析を継続的に行う。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	事業内容に組み替えがありました。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成25年度	事業内容に組み替えがありました。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考（その他）</b>			

5 (1) ②1	乳幼児健康診査	担当課	健康課
----------	---------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
乳幼児の健康状態の確認及び心身の問題の早期発見・早期治療や支援を目的に健康診査を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査受診率の向上に努めます。</li> <li>未受診者への受診勧奨を行います。</li> <li>関係機関と連携し、未受診者等の状況把握の体制を強化します。</li> </ul>

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査 対象者 受診者数 受診率           <ul style="list-style-type: none"> <li>4か月児健診 1785人 1708人 95.7%</li> <li>8-10か月児健診 1839人 1754人 95.4%</li> <li>1歳6か月児健診 1838人 1742人 94.8%</li> <li>2歳児歯科健診 1885人 1026人 54.4%</li> <li>3歳児健診 1935人 1799人 93.0%</li> </ul> </li> <li>乳幼児ケア 12回 47人</li> <li>健康事後フォロー教室           <table border="1"> <tr> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> <tr> <td>親子教室 (1歳6か月児健診後)</td> <td>56回 1441人</td> </tr> <tr> <td>幼児教室 (3歳児健診後)</td> <td>16回 250人</td> </tr> </table> </li> <li>外遊び2時間以上の児の割合 (休日) 1歳6か月児健診 34.3%、3歳児健診41.2%</li> <li>22時までに就寝している児の割合 1歳6か月児健診 94.1%、3歳児健診89.4%</li> <li>むし歯のない3歳児の割合 3歳児健診 82.1%</li> </ul>	回数	参加者数	親子教室 (1歳6か月児健診後)	56回 1441人	幼児教室 (3歳児健診後)	16回 250人
	回数	参加者数					
	親子教室 (1歳6か月児健診後)	56回 1441人					
	幼児教室 (3歳児健診後)	16回 250人					
検証結果	A：成果があがった						
今後の課題							
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続						
平成26年度	事業内容に組み替えがありました。						
	検証結果						
	今後の課題						
	今後の事業展開とその判断理由						
平成25年度	事業内容に組み替えがありました。						
	検証結果						
	今後の課題						
	今後の事業展開とその判断理由						

備考 (その他)

5 (1) ②2	乳幼児期の相談の充実	担当課	健康課
----------	------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
未就学児を対象として、保護者の育児不安等の対応と、子どもにとって望ましい生活習慣の確立ができるように育児相談を充実させます。	乳児期において望ましい生活習慣の確立ができるように乳児期の相談を実施します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7か月児相談を平成28年4月から実施する予定で準備ができた。</li> <li>・育児相談を毎月3回実施 年36回実施 来所者数2,036人</li> <li>・すくすく子育て教室、離乳食教室、はみがき教室を開催した。</li> <li>・平成27年度新規事業として低出生体重児の集い(おひさまくらぶ)を実施した。年6回 参加人数106人(児50人、保護者等56人) 母同士が交流する場として、参加者の満足度は非常に高く情報交換や仲間づくりをする場として活用されている。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 7か月児相談の開始に伴い、すくすく子育て教室は廃止。
平成 26 年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	
平成 25 年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

<b>備考 (その他)</b>	



5 (1) ②3	訪問事業	担当課	健康課
----------	------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
乳幼児を持つ家庭に対する訪問を通し、育児不安への対応や、精神的な不安定さを抱える母親への支援を実施します。	こんにちは赤ちゃん訪問の実施率の向上を目指していきます。（参考値：平成25年度実績93.7%）

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<p>こんにちは赤ちゃん訪問 訪問率95.6%          こんにちは赤ちゃん訪問にて児の発育状況や母の育児不安等へ対応し、必要な方にはその後の健診や継続訪問等でも継続支援をしている。</p> <p>未熟児訪問 訪問率64.4%          （年度末に出生した低出生体重児が多かったため、訪問未実施が多い。11月末までの実施率は64.6%）          2500g以上で生まれた児に比べて、低出生体重児の育児は、育てにくく、また親の育児不安も大きいため今後も丁寧な関わりを継続し育児を支援していく。          小さく生まれた児の育児のしおりに作成し、育児の特徴を伝えるツールとする。</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 未熟児の特徴を知り育児の知識を得て、余裕をもって育児に取り組めるようにするため平成28年度より「小さく生まれた児の育児のしおり」を配付して知識の普及に努める。
平成26年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	
平成25年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

<b>備考（その他）</b>	

5 (1) ②4	学習の場の提供	担当課	健康課
----------	---------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<p>幼児健診等で年齢に合わせた生活習慣に関する学習機会を提供し、親の育児に関する知識を豊かにすることで子どもの健やかな成長を支えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児健診や幼稚園・保育所における巡回教室等で生活習慣(生活リズム、外あそび、食事、睡眠、歯の健康等)に関する情報について、学習の機会を提供します。</li> <li>・小さく生まれたお子さんのための育児教室を開催します。</li> </ul>

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣に関する情報提供を保健センターで実施している幼児集団健診と子どもの生活習慣病予防対策巡回教室において実施。巡回教室 平成27年度47回42園、参加人数2466人</li> <li>・平塚市内の公私の保育園・幼稚園の5歳児を対象に5歳児の生活習慣の実態を把握するために、隔年で5歳児生活実態調査を実施。</li> <li>・保健センターで実施している歯みがき教室や幼稚園や保育園で実施する永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室において、参加した保護者や幼児に対して、歯の手入れ方法やフッ化物の利用などの普及啓発等を実施。歯みがき教室年16回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室40園で実施</li> <li>・幼児健診パンフレット(生活リズム)の自由配布。</li> <li>・新婚の方への情報提供：婚姻届出時にパンフレット配布 439部</li> <li>・おひさまくらぶ(低出生体重児の集い) 平成27年度 実施回数6回 参加人数106人(児50人、保護者等56人)</li> </ul> <p>平成25年～平成27年1700g未満の低出生対象児の34.6%の参加率 低出生体重児の育児について保健師、保育士からのみでなく、理学療法士等多職種からのアドバイスも行い、知識の普及を行った。</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p> <p>歯みがき教室については、年齢に合わせたむし歯予防方法の普及啓発とともに、低年齢からのフッ素の利用方法について正しい知識の普及が必要であるため、事業を拡大して実施する。</p>
平成26年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	
平成25年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

<b>備考 (その他)</b>	

5 (1) ②5	感染症対策の推進	担当課	健康課
----------	----------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<p>伝染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するために予防接種を実施します。</p>	<p>定期予防接種の重要性について、ホームページ、広報紙、個別通知等、各種事業で周知します。</p>

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<p>・ 出生届の手続き時に予防接種の受け方や重要性が記載された「予防接種インフォメーション」と「予防接種とこどもの健康」を配布。          ・ こんにちは赤ちゃん訪問等で再度、保護者に定期予防接種の重要性・進め方について説明している。          ・ 幼児健診（1歳6か月児健診・3歳児健診）で予防接種歴を確認し、必要時保護者に予防接種の重要性について説明している。          ・ 個別通知・広報・ホームページ、幼稚園、保育園、学校を經由して接種勧奨するチラシを配布している。</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<p>事業内容に組み替えがありました。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	
平成 25 年度	<p>事業内容に組み替えがありました。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

備考 (その他)

5 (1) ②6	5 歳児健康診査	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
発達に課題を持つ子どもたちが支援を受けずに就学・就職して、困難な状況に陥りがちなことから、市内の5歳児を対象に、スクリーニング調査により健康診査を実施し、要支援という結果が出た子どもに対し、必要な支援を行ってまいります。		対象を全市に拡大し、必要な支援を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	調査票配布協力園：62園 調査票配布数：1,910人 調査票回答者：1,700人(89.0%) 要支援者：220人 要支援率：12.9% 要支援者在籍園への訪問療育相談 平成27年度対象：52園 平成26年度対象へのフォロー：29園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	実施結果に係る教育との連携方法を検討していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 平成28年度に配布対象を認可外保育所等にも含めた市内全体へ広げるため。	
平成26年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成25年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			

5 (1) ②7	保育所における食育の推進	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
乳幼児期から、正しい食事のとり方や望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性の形成、家族関係づくりによる心身の健全育成を図ります。		クッキング保育やバイキング給食、ボードを使用しての食品構成あそび等を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキング保育、バイキング給食の実施</li> <li>・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施</li> <li>・給食試食会の実施</li> <li>・献立表、給食だよりの配布</li> <li>・野菜などの栽培・収穫</li> <li>・食育年間計画の運用</li> </ul> 実施園：38園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキング保育、バイキング給食の実施</li> <li>・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施</li> <li>・給食試食会の実施</li> <li>・献立表、給食だよりの配布</li> <li>・野菜などの栽培・収穫</li> <li>・食育年間計画の運用</li> </ul> 実施園：33園		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキング保育、バイキング給食の実施</li> <li>・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施</li> <li>・給食試食会の実施</li> <li>・献立表、給食だよりの配布</li> <li>・野菜などの栽培・収穫</li> <li>・食育年間計画の運用</li> </ul> 実施園：33園		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			

5 (2) ①1	教育の充実 1	担当課	教育総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>・ 体格の実態を把握します。 生活習慣病予防や歯の健康に関する知識の普及に努めます。</p> <p>① 小学校 4 ～ 6 年生の体格調査と健康教育の実施 ② 学校歯科巡回指導の実施</p>		引続き事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>肥満度 30 パーセント以上の児童 70 名に医療機関の受診をすすめた。また、児童健康教室を開催し、児童 13 名に運動教室、栄養相談、医師面談を実施した。 小学校全 28 校で歯科巡回指導を実施した。 3 計測結果 (身長・体重・座高) ・視力検査結果・歯科検診結果をとりまとめ、保健統計を作成した。</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	児童健康教室への参加率を高める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成 25 年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (2) ①2	教育の充実2	担当課	教育指導課
----------	--------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病予防に関する実態の把握をします。</li> <li>生活習慣病予防に関する健康教育を実施します。</li> <li>①朝食を欠食する子どもの割合の減少</li> <li>②睡眠が6時間未満の子どもの割合の減少</li> <li>③運動・スポーツを週3回以上する子どもの割合の増加</li> </ul>	<p>生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るために、また、運動に親しむ資質や能力を育てるために、学校教育全体を通して健康に関する教育を推進していきます。</p>

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「平成27年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」にて、神奈川県及び平塚市の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握した。</li> <li>各小中学校の体育及び保健体育の授業を通じて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上をめざした教育実践を行った。</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成26年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	
平成25年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

備考 (その他)

5 (2) ①3	学校保健の充実	担当課	教育総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>心電図検査、心臓疾患第2次検査、腎臓疾患 (尿) 検査、同2次検査、同3次精密検査、寄生虫卵 (ぎょう虫卵) 検査、結核健康診査、胸部レントゲン直接撮影、結核健康診断精密検査、小学校歯科巡回指導を実施します。</li> <li>各学校 (園) 健康診断 (内科、眼科、耳鼻科、歯科) を実施します。</li> </ul>		引続き事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	心電図検査 (5月実施) 心臓疾患2次検査 (6月実施) 腎臓疾患 (尿) 検査 (9月実施)、同2次検査 (9月実施)、同3次精密検査 (10月実施) 寄生虫卵 (ぎょう虫卵) 検査 (5月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影 (7月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影結果に基づく精密検査 (8月実施) 小学校歯科巡回指導 (5~7月、9月から12月) 上記検査のほか、各学校 (園) で健康診断 (内科、眼科、耳鼻科、歯科) を実施しました。		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	学校保健安全法施行規則の改正により平成28年4月から運動器検診が導入されたが、学校ごとに検診内容に差異が生じることのないよう検診方法の周知・徹底を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	心電図検査 (5月実施) 心臓疾患2次検査 (6月実施) 腎臓疾患 (尿) 検査 (9月実施)、同二次検査 (9月実施)、同三次精密検査 (10月実施) 寄生虫卵 (ぎょう虫卵) 検査 (5月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影 (7月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影結果に基づく精密検査 (8月実施) 小学校歯科巡回指導 (5~7月、9月から1月) 中学校歯科巡回指導 (希望校1校で実施) 上記検査のほか、各学校 (園) で健康診断 (内科、眼科、耳鼻科、歯科) を実施しています。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	心電図検査 (5月実施) 心臓疾患2次検査 (6月実施) 腎臓疾患 (尿) 検査 (9月実施)、同二次検査 (9月実施)、同三次精密検査 (10月実施) 寄生虫 (ぎょう虫) 検査 (5月実施) 結核健康診断胸部レントゲン直接撮影 (7月実施) 小学校歯科巡回指導 (5~7月、9月から12月) 上記検査のほか、各学校 (園) で健康診断 (内科、眼科、耳鼻科、歯科) を実施しています。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			



5 (2) ①4	スクールカウンセラー派遣事業 (3 (2) 2再掲)	担当課	子ども教育相談センター
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童・生徒の様々な問題を解決するために本人や保護者のカウンセリングと教職員を支援するスクールカウンセラーを小・中学校に派遣します。		スクールカウンセラーを年間15人派遣し、全小・中学校に配置していきます。その後は勤務日の増加を目指します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<p>13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容          教室巡回2,446回、外部関係書・機関との情報交換157回、教職員向け研修会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席91回、校内支援会議への参加160回、家庭訪問40回、その他20回 計2,918回          来室相談延べ人数          小学生1,838人、中学生858人、小学生保護者1,012人、中学生保護者299人、小学校教員2,073人、中学校教員732人、計6,812人          電話相談延べ人数          小学生36人、中学生60人、小学生保護者202人、中学生保護者114人、小学校教員4人、中学校教員4人計420人          来室相談内容延べ人数          いじめ81人、長期欠席1,779人、暴力行為90人、学習進路545人、親子関係523人、友人異性860人、自己性格1,490人、身体健康272人、その他1,172人          電話相談内容延べ人数          いじめ10人、長期欠席144人、暴力行為2人、学習進路30人、親子関係19人、友人異性48人、自己性格95人。身体健康22人、その他50人</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができません。2人の増員とその後は、勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となります。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。	
平成26年度	<p>・県事業のスクールカウンセラーと合わせて、小中学校全校に配置し、児童・生徒、保護者、教職員への支援を行っている。          ・市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校、中学校11校に週1回配置。県スクールカウンセラーが中学校15校全校に週1回配置されているので、中学校11校については、県と市のスクールカウンセラーによる週2回の配置ができた。          ・平成26年度の来所相談・電話相談の延べ件数は8,653件です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題	中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置が出来ると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校週2回の配置が出来ます。2人の増員と現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となります。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成25年度	<p>・県事業のスクールカウンセラーと合わせて、小中学校全校に配置し、児童・生徒、保護者、教職員への支援を行っている。          ・市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校、中学校11校に週1回配置。県スクールカウンセラーが中学校15校全校に週1回配置されているので、中学校11校については、県と市のスクールカウンセラーによる週2回の配置ができた。          ・平成25年度の来所相談・電話相談の延べ件数は7,271件です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
<b>備考 (その他)</b>			
いじめ、不登校、発達の課題等、学校現場が抱える教育課題に対し、臨床心理の側面から様々な活動を行い、児童、生徒や保護者、教職員を支援しています。こうした活動は、子どもたちの安心安全な学校生活につながります。しかし、週1、2回の配置では、不十分であるとの声が聴かれますので、スクールカウンセラーの増員と勤務日の増加を図る必要がある。			

5 (2) ②1	思春期の教育の充実	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
母性・父性を養い、将来に向けた健全な身体づくりに関する教育を実施します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来に向けた身体づくりや性に関する知識の普及に努めます。</li> <li>・思春期対策連絡会の実施等で関係機関との連携を図ります。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<p>平成27年7月14日 県立平塚農業高校1年生(195人)に「未来の自分のために必要なこと」というテーマで性(身体のこと)、妊娠の仕組み、性感染症、命の大切さについて講演会を実施。</p> <p>平成27年10月14日 県立平塚養護学校 高等部3年生(19人)に食事の選択の仕方を学び、健康づくりや楽しい食生活の営みに結びつけるというテーマで買い物ゲーム・味覚テストを交えて授業を実施</p> <p>平成28年1月15日～19日 平塚農業高校2年生全クラス(175人)に「健康な母親・父親になるために～まずは自分の健康づくりから～」というテーマで性(身体のこと)、妊娠について、性感染症についての講義と育児体験(沐浴人形を使ってのおむつ交換・抱っこ・乳幼児揺さぶられ症候群について)・妊婦体験・食事バランスゲームの実施</p> <p>平成28年3月7日 中原中学校3年生(160人)に対し、性に関する授業を実施</p> <p>平成28年3月22日に思春期対策連絡会を実施</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p> <p>思春期事業について全中学校へ周知文を送付し、出張事業の依頼が増えるよう取り組む。</p>	
平成26年度	事業内容に組み替えがありました。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成25年度	事業内容に組み替えがありました。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			

5 (2) ②2	<p style="text-align: center;">こころと命のサポート事業 (1 (4) 8再掲)</p>	担当課	福祉総務課						
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)							
<p>地域において実施しているおはなし会や読み聞かせ、読み語り等の中で、「命の大切さ、尊さ」をテーマに取り上げてもらうことで、命の大切さ、尊さを普及・啓発し、自殺対策を推進します。</p>		<p>地域で活動している団体等に、本事業についての理解を深めてもらい、おはなし会、読み聞かせ、読み語りの中で「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうように働きかけを行い、命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。</p>							
<b>各年度における主な取組み等</b>									
平成 27 年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況          ①花水小学校 64回のべ約9,148人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)          ②なでしこ小学校 28回のべ約4,195人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)          ③花水台保育園 38回のべ約3,602人(1～5歳児クラスで実施。)          ④花水公民館 23回389人          ⑤平塚工科高等学校 1回16人          合計 1地区 実施回数154回 のべ約17,350人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">検証結果</td> <td>A: 成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td>行政提案型協働事業としてはじまった取組として定着してきていますが、この取組が他地区へも広がっていくことが望まれます。地域で活動している団体等に「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうよう働きかけを行うだけでなく、小中学校へもリストの活用や、図書室での「いのちの尊さをつたえる本」コーナー設置等の協力を依頼し、連携して命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。</td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A: 成果があがった	今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取組として定着してきていますが、この取組が他地区へも広がっていくことが望まれます。地域で活動している団体等に「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうよう働きかけを行うだけでなく、小中学校へもリストの活用や、図書室での「いのちの尊さをつたえる本」コーナー設置等の協力を依頼し、連携して命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果	A: 成果があがった								
今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取組として定着してきていますが、この取組が他地区へも広がっていくことが望まれます。地域で活動している団体等に「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうよう働きかけを行うだけでなく、小中学校へもリストの活用や、図書室での「いのちの尊さをつたえる本」コーナー設置等の協力を依頼し、連携して命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
平成 26 年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況(平成27年3月31日現在)          ①花水小学校 144回のべ約4700人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)          ②なでしこ小学校 73回のべ約3500人(朝の読み聞かせの時間等に実施。)          ③花水台保育園 78回のべ約2500人(週1回の読み聞かせで1～5歳児クラスで実施。)          ④花水公民館 14回のべ約240人          ⑤神田中学校 1回16人          ⑥平塚工科高等学校 1回13人          合計 2地区 実施回数311回 のべ約10969人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">検証結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td>行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる。</td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果		今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果									
今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる。								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
平成 25 年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況①花水小学校 のべ27回834人②なでしこ小学校 のべ27回759人③花水台保育園 のべ34回470人 ※①②については朝の読み聞かせの時間等に実施。③については週1回の読み聞かせで1～5歳児クラスで実施 ④命・平和・戦争の本の展示 1回のべ565人⑤命と心の授業3回90人⑥命と心の読書授業3回120人⑦戦争と平和の授業3回90人⑧朝のよみがたり1回32人④～⑧については金目小学校で実施 2地区開催、合計のべ実施回数99回 合計のべ参加者数2960人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">検証結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td>行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる</td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果		今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果									
今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取り組みとして定着してきているが、この取り組みが、他地区へ広がっていくことが望まれる								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
<b>備考 (その他)</b>									

5 (3) 1	一時預かり事業 (2 (1) 1再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保護者の断続的な就労、病気や育児疲れの解消等の理由で、 子どもの保育ができないときの緊急・一時的な保育を行います。 [対象：就学前児童]		施設型給付の幼稚園や民間保育所でも一時預かりを実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	・民間保育所18園で実施 (延べ利用児童数15,105人 平成27年度実績)		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	・民間保育所17園で実施 (延べ利用児童数14,141人 平成26年度実績)		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	・民間保育所16園で実施 (延べ利用児童数13,815人 平成25年度実績)		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (3) 2	ファミリー・サポート事業 (2 (1) 2再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての援助を受けたい方 (依頼会員) と子育ての援助を行いたい方 (支援会員) を組織化し、幼稚園・保育所等への送迎及びその前後の預かり等の育児の援助活動の橋渡しを行います。〔依頼会員：0歳からおおむね9歳までの児童の保護者〕		支援会員に対する講習時間を段階的に増やし、支援サービスの向上を図ります。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援会員入会説明会 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員の講習会を 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員のフォローアップ研修会を 1 回開催。</li> <li>・ 支援会員と依頼会員間の交流会を 1 回開催。</li> </ul> <p>※平成 27 年度実績            会員数：支援会員 314 名、依頼会員 1,162 名、両方会員 42 名            活動件数：2,045 件</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援会員入会説明会 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員の講習会を 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員のフォローアップ研修会を 1 回開催。</li> <li>・ 支援会員の懇談会を 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員と依頼会員間の交流会を 1 回開催。</li> </ul> <p>※平成 26 年度実績            会員数：支援会員 284 名、依頼会員 1,036 名、両方会員 42 名            活動件数：2,904 件</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援会員入会説明会 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員の講習会を 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員のフォローアップ研修会を 1 回開催。</li> <li>・ 支援会員の懇談会を 2 回開催。</li> <li>・ 支援会員と依頼会員間の交流会を 1 回開催。</li> </ul> <p>※平成 25 年度実績            会員数：支援会員 284 名、依頼会員 979 名、両方会員 40 名            活動件数：3,377 件</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (3) 3	子育て支援センター事業 (2 (2) 1再掲)	担当課	保育課
---------	----------------------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
子育て家庭に対する育児不安等についての相談支援、各種子育てに係る情報提供、親子の気軽な交流の場としての子育てサロンの運営、子育てサークルや子育て支援活動への支援を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕	安心して子育てができるように引続き子育て支援センター事業を推進します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<p>・1ヶ所実施。 利用者数：大人9,932名、子ども12,474名、合計22,406名 相談件数：面接2,806件、電話30件、その他513件</p> <p>一日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し(フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど)を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成 26 年度	<p>・1ヶ所実施。 利用者数：大人8,397名、子ども10,700名、合計19,097名 相談件数：面接1,933件、電話14件、その他415件</p> <p>一日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し(フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど)を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td></td> </tr> </table>	検証結果	
	検証結果		
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成 25 年度	<p>・1ヶ所実施。 利用者数：大人8,702名、子ども11,042名、合計19,744名 相談件数：面接1,568件、電話24件、その他577件</p> <p>一日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し(フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど)を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td></td> </tr> </table>	検証結果	
	検証結果		
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td></td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由		
今後の事業展開とその判断理由			

<b>備考 (その他)</b>	

5 (3) 4	つどいの広場事業 (2 (2) 2再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
主に乳幼児を持つ親と子どもが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合うことで、精神的な安心感をもたらし、問題解決への糸口となる機会(場)を提供します。〔対象：おおむね0～3歳児及び保護者〕		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年4月から新たなつどいの広場1か所を開設できるように準備を進めます。</li> <li>安心して子育てができるように引続きつどいの広場事業を推進します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>3か所で実施。</li> <li>月に1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。</li> <li>「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,726名、子ども4,830名、合計9,556名 相談件数：711件</li> <li>「つどいの広場 きりんのうち」 利用者数：大人8,305名、子ども9,318名、合計17,623名 相談件数：1060件</li> <li>「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,988名、子ども4,591名、合計8,579名 相談件数：500件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>3か所で実施。</li> <li>月に1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。</li> <li>「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,461名、子ども4,833名、合計9,294名 相談件数：844件</li> <li>「つどいの広場 きりんのうち」 利用者数：大人8,662名、子ども10,066名、合計18,728名 相談件数：1,253件</li> <li>「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人4,586名、子ども5,433名、合計10,019名 相談件数：243件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>3か所で実施。</li> <li>月に1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。以下は平成25年度実績</li> <li>「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,660名、子ども4,976名、合計9,636名 相談件数：876件</li> <li>「つどいの広場 きりんのうち」 利用者数：大人8,369名、子ども9,454名、合計17,823名 相談件数：1,934件</li> <li>「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人5,282名、子ども6,292名、合計11,574名 相談件数：229件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (3) 5	開放保育事業 (2 (2) 3再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域の未就園児とその保護者に保育所の園庭や施設を開放し、園児との交流や保護者同士の交流を図り、保育士による育児相談や情報提供を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕		保育所29園で概ね週1回程度、保育所を開放し、育児情報の提供や育児相談等を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所30園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所29園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し、育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所29園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し、育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			



5 (3) 6	赤ちゃん広場事業 (2 (2) 4再掲)	担当課	保育課
---------	-------------------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
保育所が、1歳未満の乳児を育てる親を対象に、育児不安等についての相談、子育てに係る情報の提供、親子の気軽な交流の場の提供を行います。〔対象：1歳未満の乳児及び保護者〕	公立保育所5園で、育児不安等についての相談を受けたり、子育てに係る情報の提供を実施します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所5園で実施 (月2回)</li> </ul> <p>【平成27年度実績】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>金田保育園・・・実施</td><td>23回、参加</td><td>21組</td></tr> <tr><td>須賀保育園・・・実施</td><td>22回、参加</td><td>56組</td></tr> <tr><td>花水台保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>78組</td></tr> <tr><td>夕陽ヶ丘保育園・・・実施</td><td>23回、参加</td><td>103組</td></tr> <tr><td>若草保育園・・・実施</td><td>23回、参加</td><td>13組</td></tr> <tr><td>合計・・・実施</td><td>115回、参加</td><td>271組</td></tr> </table>		金田保育園・・・実施	23回、参加	21組	須賀保育園・・・実施	22回、参加	56組	花水台保育園・・・実施	24回、参加	78組	夕陽ヶ丘保育園・・・実施	23回、参加	103組	若草保育園・・・実施	23回、参加	13組	合計・・・実施	115回、参加	271組
	金田保育園・・・実施	23回、参加	21組																	
	須賀保育園・・・実施	22回、参加	56組																	
	花水台保育園・・・実施	24回、参加	78組																	
夕陽ヶ丘保育園・・・実施	23回、参加	103組																		
若草保育園・・・実施	23回、参加	13組																		
合計・・・実施	115回、参加	271組																		
検証結果	A：成果があがった																			
今後の課題																				
今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 金田保育園の廃園に伴い規模を縮小して実施する																			

平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所5園で実施 (月2回)</li> </ul> <p>【平成26年度実績】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>金田保育園・・・実施</td><td>21回、参加</td><td>88人</td></tr> <tr><td>須賀保育園・・・実施</td><td>23回、参加</td><td>80人</td></tr> <tr><td>花水台保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>172人</td></tr> <tr><td>夕陽ヶ丘保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>145人</td></tr> <tr><td>若草保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>5人</td></tr> <tr><td>合計・・・実施</td><td>116回、参加</td><td>490人</td></tr> </table>		金田保育園・・・実施	21回、参加	88人	須賀保育園・・・実施	23回、参加	80人	花水台保育園・・・実施	24回、参加	172人	夕陽ヶ丘保育園・・・実施	24回、参加	145人	若草保育園・・・実施	24回、参加	5人	合計・・・実施	116回、参加	490人
	金田保育園・・・実施	21回、参加	88人																	
	須賀保育園・・・実施	23回、参加	80人																	
	花水台保育園・・・実施	24回、参加	172人																	
夕陽ヶ丘保育園・・・実施	24回、参加	145人																		
若草保育園・・・実施	24回、参加	5人																		
合計・・・実施	116回、参加	490人																		
検証結果																				
今後の課題																				
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																			

平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所5園で実施 (月2回)</li> <li>・こども総合相談窓口担当保育士が各園を訪問し (月1回)、授乳・離乳食・予防接種等に関する育児相談への対応、タッチケア指導等を行っている。</li> </ul> <p>【平成25年度実績】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>金田保育園・・・実施</td><td>23回、参加</td><td>32人</td></tr> <tr><td>須賀保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>154人</td></tr> <tr><td>花水台保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>155人</td></tr> <tr><td>夕陽ヶ丘保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>220人</td></tr> <tr><td>若草保育園・・・実施</td><td>24回、参加</td><td>5人</td></tr> <tr><td>合計・・・実施</td><td>119回、参加</td><td>566人</td></tr> </table>		金田保育園・・・実施	23回、参加	32人	須賀保育園・・・実施	24回、参加	154人	花水台保育園・・・実施	24回、参加	155人	夕陽ヶ丘保育園・・・実施	24回、参加	220人	若草保育園・・・実施	24回、参加	5人	合計・・・実施	119回、参加	566人
	金田保育園・・・実施	23回、参加	32人																	
	須賀保育園・・・実施	24回、参加	154人																	
	花水台保育園・・・実施	24回、参加	155人																	
夕陽ヶ丘保育園・・・実施	24回、参加	220人																		
若草保育園・・・実施	24回、参加	5人																		
合計・・・実施	119回、参加	566人																		
検証結果																				
今後の課題																				
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																			

<b>備考 (その他)</b>

5 (4) ①1	育てにくさを感じる親に寄り添う支援	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子育て中の親が育児に対して少しでも余裕と自信を持つことができるように、育てにくさを感じている親の実態を把握しながら支援していきます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診票から実態を把握します。</li> <li>・子育ての仕方や発育発達の知識を普及します。</li> <li>・幼児健診事後フォロー教室を実施します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年4月から健康診査で実態把握を行うための健診票の準備ができた。</li> <li>・子育ての仕方や発育発達の知識の普及に努めた。</li> <li>・幼児健診事後フォロー教室については1歳6か月児健診事後フォロー教室を3教室(例年は2教室だが、対象者の増加に伴い教室を増やして対応した。)、3歳児健診事後フォロー教室を1教室開催。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>事業の組み替えがあったため、平成26年度以前の実績はありません。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成 25 年度	<p>事業の組み替えがあったため、平成26年度以前の実績はありません。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (4) ①2	子育て講座	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての悩みがある親に対して、子どもとの関わり方や親子関係を改善していきます。		子育ての悩みがある親に対して、子どもとの関わり方や親子関係を改善していく講座を開催します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	通常版 (6回シリーズ) を3クール実施。 ダイジェスト版を8回実施。 トレーナー養成講座 (全3回) を1クール実施した。		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	トレーナーの継続的な養成	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
平成25年度	子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			
CSP (コモンセンスペアレンティング) から名称変更			

5 (4) ①3	ペアレントトレーニング	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>発達に障がいを持つ子どもの養育は難しく、親が子育てに自信を失いがちであることから、ペアレントトレーニングの効果が見込まれる希望者に対して、10回コースの講座を実施します。また、より多くの保護者へのダイジェスト講座、幼稚園・保育所、小・中学校等の指導者向け講座であるティーチャーズトレーニングも実施していきます。</p>		<p>より多くの保護者が受講できるように講座の実施方法を工夫します。また、講座修了者に対して、同じ立場から共感的に悩み等を聞くことができる「ペアレントメンター」として活動してもらえるようにその育成に取組みます。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>3グループ実施（内容を見直し、8回コースに変更） 参加者数：26人 ティーチャーズトレーニング 公立保育園向け：12回 学校等の教育機関向け：2回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	ペアレントメンターの育成	
平成 26 年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
平成 25 年度	<p>子ども・子育て支援事業計画において、新たに位置づけした事業です。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	<p>今後の事業展開とその判断理由</p>		
<b>備考（その他）</b>			

5 (4) ②1	こども発達支援室の療育相談	担当課	こども家庭課
<b>事業の概要 (計画掲載内容)</b> 子どもの発達の不安に対応するために電話や面接により相談を行います。また、心理相談、言語聴覚士による相談、作業療法士による相談、小児精神科医による相談、一般相談等、子育てについての不安や悩みの相談を受付けます。		<b>今後の取組み (計画掲載内容)</b> 相談事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに考えました。 (個別の来所相談) ・心理相談 週5回実施 延べ1,295件 ・言語聴覚士による相談 週2回実施 延べ241件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ727件 ・児童精神科医による相談 月1回実施 延べ40件 ・ことばの相談員による相談 週5回実施 延べ892件 ・一般相談随時 延べ370件 電話による相談374件 (グループや事業における相談) ・経過観察グループ 全グループ 152回、実施実人数 118人 ・子育て交流ひろば 実施回数 24回、参加日数 延べ282人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する相談へ対応するためのマンパワー及び相談場所の確保	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに考えました。 (個別の来所相談) ・心理相談 週5回実施 延べ1,141件 ・言語聴覚士による相談 月10回実施 延べ380件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ664件 ・小児精神科医による相談 月1回実施 延べ23件 ・一般相談随時 延べ306件 電話による相談1,094件 (グループや事業における相談) ・経過観察グループ 全グループ 120回 実施実人数 107人 ・子育て交流ひろば 実施回数 24回 参加日数延べ442人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに考えました。 (個別の来所相談) ・心理相談 週5回実施 延べ952件 ・言語聴覚士による相談 月10回実施 延べ367件 ・作業療法士による相談 月10回実施 延べ294件 ・小児精神科医による相談 月1回実施 延べ21件 ・一般相談随時 延べ295件 電話による相談1393件 (グループや事業における相談) ・経過観察グループ 全グループ 100回 実施実人数 99人 ・子育て交流ひろば 実施回数 24回 参加日数延べ491人		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			

5 (4) ③1	地域療育システム事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
障がい児、発達に偏りのある子どもの発達を支援し、身近な地域で安心して生活できるように医療・保健・教育・地域・福祉等の連携を図ります。		関係機関との連携を継続・強化します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成27年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携(システム化)を図りました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども発達支援室による各機関との主に電話による連携 565回 (739件)</li> <li>・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携 195回 (277件)</li> <li>・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ 45人</li> <li>・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会 年2回実施</li> <li>・障がい児推進会議 12回</li> <li>・こども教育相談センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会 1回</li> <li>・公立幼稚園障がい児受け入れ会議 2回</li> <li>・支援報告書提供数 302件</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携(システム化)を図りました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども発達支援室による各機関との主に電話による連携 556回 (713件)</li> <li>・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携 254回 (356件)</li> <li>・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ 33人</li> <li>・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会 年2回実施</li> <li>・障がい児推進会議 12回</li> <li>・公立幼稚園障がい児受け入れ会議 1回</li> <li>・支援報告書提供数 397件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携(システム化)を図りました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども発達支援室による各機関との主に電話による連携 580回 (676件)</li> <li>・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携 219回 (344件)</li> <li>・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ 44人</li> <li>・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会 年3回実施</li> <li>・障がい児推進会議 11回</li> <li>・こども教育センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会 3回</li> <li>・公立幼稚園障がい児受け入れ会議 1回</li> <li>・支援報告書提供数 308件</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (4) ③2	福祉サービス費の支給	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
障がい児等に対する各種福祉サービス費を支給し、障がい児等の発達支援、及び保護者の介護負担軽減を図ります。		サービスについての情報提供をし、適切に支給します。	
各年度における主な取組み等			
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児に対する児童福祉法及び障害者総合支援法による各種サービスの支給：受給者数545人</li> <li>・児童福祉法による障害児通所支援等の事業者数 児童発達支援センター・・・1、児童発達支援・・・8、放課後等デイサービス・・・20、保育所等訪問支援・・・1、障害児相談支援・・・17</li> <li>・障害者総合支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業者数 居宅介護・・・29、短期入所・・・6、移動支援事業・・・30、日中一時支援・・・11、障がい児タイムケア事業・・・1</li> </ul> 注 平塚市域を事業エリアとする事業所。短期入所のみ平塚市を所在とする事業所		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する支給量へ対応するための適切な支給調整	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児に対する児童福祉法及び障害者自立支援法による各種サービスの支給：受給者数約534人</li> <li>・児童福祉法による障害児通所支援等の事業者数 児童発達支援センター・・・1、児童発達支援・・・7、放課後等デイサービス・・・17、保育所等訪問支援・・・1、障害児相談支援・・・11</li> <li>・障害者自立支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業者数 居宅介護・・・45、短期入所・・・6、移動支援事業・・・29、日中一時支援・・・13、地域活動支援センター・・・1、障がい児タイムケア事業・・・1</li> </ul> 注1 平成24年4月から、障害者自立支援法における児童デイサービスが児童福祉法による障害児通所支援として細分化され、障害児相談支援が創設された。 注2 上記事業所は、平塚市域を事業エリアとする事業所。短期入所のみ平塚市を所在とする事業所		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児に対する児童福祉法及び障害者自立支援法による各種サービスの支給：受給者数約506人</li> <li>・児童福祉法による障害児通所支援等の事業者数 児童発達支援センター・・・1、児童発達支援・・・6、放課後等デイサービス・・・12、保育所等訪問支援・・・1、障害児相談支援・・・9、</li> <li>・障害者自立支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業者数 居宅介護・・・45、短期入所・・・6、移動支援事業・・・29、日中一時支援・・・13、地域活動支援センター・・・1、障がい児タイムケア事業・・・1</li> </ul> 注1 平成24年4月から、障害者自立支援法における児童デイサービスが児童福祉法による障害児通所支援として細分化され、障害児相談支援が創設された。 注2 上記事業所は、平塚市域を事業エリアとする事業所。短期入所のみ平塚市を所在とする事業所		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (4) ③3	障がい児保育	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所において、保育を必要とし、集団保育が可能な障がい児を受入れて保育を行います。〔対象：就学前児童〕		・障がいを持つ乳幼児を受入れ、保育を実施します。 ・保育士が障がい児保育講習会や研修会へ積極的に参加していきます。	
各年度における主な取組み等			
平成 27 年度	・障がい児の保育を実施 (平成27年度実績) 公立 28人 (延べ267人) 私立 36人 (延べ364人) ・保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加		
検証結果	A：成果があがった		
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成 26 年度	・障がい児の保育を実施 (平成26年度実績) 公立 27人 (延べ275人) 私立 23人 (延べ256人) ・保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加		
検証結果			
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成 25 年度	・障がい児の保育を実施 (平成25年度実績) 公立 26人 (延べ265人) 私立 24人 (延べ223人) ・保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加		
検証結果			
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
備考 (その他)			



5 (4) ③4	統合保育	担当課	保育課
----------	------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
保育を必要としないが、集団保育による療育を必要とする児童を対象に、健常児との関わりの中で、児童の発達促進を図るため、保育所における統合保育を行います。 なお、保育所の待機児童の解消との関連を視野に入れながら、実施について検討するものとします。 [対象：就学前児童]	統合保育の実施に向けた検討を継続します。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<p>市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っているため、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。            なお、平成27年度は、保育を必要とする集団保育が可能な障がい児64人（延べ631人）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 26 年度	<p>・現状において市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っており、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。            なお、平成26年度において、保育に欠ける集団保育が可能な障がい児50人（延べ531人）（平成26年度実績）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	待機児童の早期解消
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 25 年度	<p>・現状において市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っており、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。            なお、平成25年度において、保育に欠ける集団保育が可能な障がい児50人（延べ488人）（平成25年度実績）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考 (その他)</b>

5 (4) ③5	体験・交流保育事業	担当課	保育課 教育総務課 教育指導課 こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
乳幼児健診、育児相談及び療育相談等でフォローが必要とされる児童を対象に、幼稚園や保育所において、健常児と集団生活をともに経験することにより、児童の健やかな成長を図り、また、保護者への育児支援を行います。〔対象：就学前児童〕		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受入れ、体験保育を実施します。</li> <li>・障がいのあるなしにかかわらず、全ての園児が幼稚園において集団で生活し、ともに活動できるように支援します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受入れ、体験保育を実施した。</li> <li>・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受入れ、交流保育を実施した。</li> <li>・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で11名受入れを行った。</li> <li>・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。</li> <li>・養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有や連携して、関係機関に繋いだ。</li> <li>・個人交流保育8件、体験保育3件、集団交流保育3件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	障がいのある幼児の受け入れ及び保育を行うための適切な介助員等の配置。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受入れ、体験保育を実施した。</li> <li>・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受入れ、交流保育を実施した。</li> <li>・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。</li> <li>・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で15名受入れを行った。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受入れ、体験保育を実施した。</li> <li>・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受入れ、交流保育を実施した。</li> <li>・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。</li> <li>・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で16名受入れを行った。</li> </ul>		
	検証結果		
	今後の課題	待機児童の早期解消	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

5 (4) ③6	支援教育等の推進・充実事業	担当課	子ども教育相談センター
----------	---------------	-----	-------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
特別な配慮を要する児童・生徒へよりよい支援を行うために、必要に応じて小・中学校に相談支援チームを派遣して校内支援体制の整備を推進するとともに、各種研究会・研修会を実施します。〔対象：小・中学校〕	支援教育の理解や校内支援体制の充実を図るために、相談支援チームの派遣や、内容を精査した研究会・研修会等の開催に努めます。

**各年度における主な取組み等**

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級訪問研究会・・・4回実施参加者延べ92人</li> <li>・通級指導教室訪問研究会・・・4回実施延べ116人</li> <li>・特別支援教育研修会・・・10回実施延べ716人</li> <li>・相談支援チームの派遣・・・44回、対象児童生徒数延べ70人</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	相談支援チームの派遣により、各学校における校内支援体制が定着されてきています。今後は、関係機関等とさらなる連携を進め、各学校においてよりきめ細かな対応が行えるよう、支援体制が充実するような働きかけをしていくことが必要です。
	今後の事業展開とその判断理由	⑦ 他事業と統合 <small>次期総合計画策定の中で、本事業が相談支援チームによるケース検討、研修会・研究会の開催による校内支援体制の充実していくものなので、他事業の研修・研究会の部分を統合して研修・研究推進事業として位置付け、支援体制の充実を図ります。</small>

平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級訪問研究会・・・4回実施参加者延べ93人</li> <li>・通級指導教室訪問研究会・・・5回実施延べ118人</li> <li>・特別支援教育研修会・・・8回実施延べ559人</li> <li>・相談支援チームの派遣・・・42回、対象児童生徒数延べ86人</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	支援教育の理解や校内支援体制の充実を図るために、相談支援チームの派遣及び活用の仕方の検討をしていくと共に、内容を精査した研修会、研究会等の開催に努めていかなければなりません。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害学級訪問研究会・・・3回実施参加者延べ71人</li> <li>・自閉症・情緒障害学級訪問研究会・・・2回実施延べ64人</li> <li>・肢体不自由学級訪問研究会・・・2回実施延べ28人</li> <li>・通級指導教室訪問研究会・・・5回実施延べ100人</li> <li>・特別支援教育研修会・・・4回実施延べ237人</li> <li>・理学療法士の派遣・・・22回</li> <li>・相談支援チームの派遣・・・42回、対象児童生徒数延べ75人</li> </ul>	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

**備考（その他）**

相談支援チームの派遣によるケース会議及び他事業の研修・研究を統合して、支援教育の理解や校内支援体制の充実を図るために、「研修・研究推進事業」として位置付ける。

5 (5) ①1	ハイリスク者への支援の充実	担当課	健康課
----------	---------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
児童虐待防止のため、早期から必要な支援を提供できるように関係機関と連携していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期におけるハイリスク者への対応を行います。</li> <li>・家庭訪問・健診等において機会を捉えた対応を行います。</li> </ul>

**各年度における主な取組み等**

平成27年度	<p>・周産期リスクアセスメントシートを活用し、関係機関（医療機関、行政機関等）と連携を取り早期からの支援を実施できた。 支援実数75件 支援会議3回</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成26年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	

平成25年度	事業内容に組み替えがありました。	
	検証結果	
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

<b>備考（その他）</b>	

5 (5) ②1	児童虐待防止ネットワークの充実 (1 (2) 1再掲)	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>児童虐待は、こども総合相談担当を中心に相談を受け、児童の処遇対応をしていますが、必要に応じて援助活動チームを編成し、関係機関と連携を取り対応します。</p>		<p>平塚市児童虐待防止等ネットワークの構成機関と連携し、子育ての支援、虐待等の早期発見や未然防止及び対策を進めます。 また、定期的の実務者会議を開催するとともに、個別ケース検討会議を随時開催します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
平成 27 年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議61回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 26 年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議44回</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 25 年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議47回</p>		
	検証結果		
	今後の課題	関係機関との連携	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			